

京都女子大学 地域連携研究センター

Annual Report 2022



目次

■地域連携研究センター	
2022年度の活動を振り返って 地域連携研究センター長 中山 玲子	01
■女性地域リーダー養成プログラム	
2022年度開講科目一覧	02
■連携プロジェクト補助事業	
2022年度連携プロジェクト補助事業一覧	10
京都刑務所との木育による造形プロジェクト 発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真	11
音楽を通じた生涯学習活動 発達教育学部 教育学科・音楽教育学専攻 教授 ガハブカ 奈美	13
電車／駅構内での性暴力防止を目指してー学生目線のポスター作成ー 法学部 法学科 教授 市川 ひろみ	15
ローカル寺院のオープンデータ化 図書館司書課程 桂 まに子	17
■その他の連携活動	
オンラインイベント・対面で再開の地域活動紹介	21
■生涯学習	
京都女子大学が提供する学びの場（公開講座 / 生涯学習講座 / リカレント教育課程）	23
2022年度 公開講座一覧	23
2022年度 生涯学習講座一覧	25
「いつまでもいくつになってもよい姿勢」 地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子	27
2022年度 リカレント教育課程概要	29
2022年度 主な活動実績	37
協定締結先と連携協定内容一覧	38
京都女子大学地域・産学官連携ポリシー	40

※教員の所属・職名は2022年度当時

2022 年度は、2021 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染状況を窺いながらでしたが、少しずつコロナ禍前の活動ができるようになってきました。これもひとえに連携・協定先の諸機関並びに地域の皆さまのご理解とご支援・ご協力のおかげと、心より感謝申し上げます。

2022 年度の連携・協定先は、京都府、京都薬科大学、実践女子大学、株式会社エヌ・ビー・エル、NEC ネットワークスアイ株式会社、公益財団法人 市川房江記念会女性と政治センター、一般財団法人 近畿健康管理センターであり、行政、大学、企業、各種団体等と多岐にわたり、包括連携協定を締結できた。また、2023 年度にデータサイエンス学部が開設されることから、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社 ID ホールディングス、株式会社リンクレアとデータサイエンスにかかる連携協定を締結した。

女性地域リーダー養成プログラム（地域連携活動科目）は、昨年同様 80 名未満の講義は対面型、それ以上の受講生数の講義はオンデマンド型で開講し、多くの学生に受講してもらうことができた。特にオンデマンドの講師の皆さまには、録画による講義提供をしていただき、直接学生とのコミュニケーションが取れず、申し訳なく思っている次第である。2019 年度より開始した副専攻プログラムの単位を修了した者が 6 名と少しずつ増加していることは、ご協力いただいた寄付講座の皆さまのおかげと心より御礼申し上げます。大学全学科、附属施設提供の生涯学習講座や公開講座もオンライン開催が多かったが、視聴者の方々もオンライン視聴に慣れて来られ、多くの方に参加いただき、評価も良かった。

連携プロジェクト補助事業は、昨年度に引き続き、法学部市川教授と学生らが、京阪電鉄株式会社と数か月にわたり意見交換をしながら性犯罪撲滅ポスターを作成した。性暴力を抑止する効果を考慮し、社会に問題提起を行い、メディア等にも取り上げていただいた。

近年、当センターの事業として、リカレント教育課程が大きく発展してきている。2018 年度に開設した平日通学コースは 5 年目を迎え、確実に実績を上げている。加えて、今年度は、文部科学省の令和 4 年度補助事業「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」で、「管理職を目指す女性のためのマネジメント力アップ・プログラム（女性リーダー・管理職育成コース）」、及び、令和 3 年度補正予算補助事業「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」で「文系女子のための DX 入門プログラム」を開講した。また、京都府生涯現役クリエイティブセンター支援強化事業として、「女性活躍応援コース」を開講した。定員に対して、2～5 倍

と多くの方に応募いただき、働く女性のリカレント教育の必要性を強く裏付ける状況であった。

「文系女子のための DX 入門コース」はデータサイエンス研究所の教員の協力を得て実施したが、DX リテラシーに自信がついた者が 66%（受講前自信がなかった 71.4%）であり、満足度も高かった。ベストプラクティスとして、文部科学省のホームページで紹介された。

「女性リーダー・管理職コース」は、我が国の社会問題となっている女性管理職の割合の低さを規定する要因について、昨年度までの本学のリカレント教育履修生のアンケート結果や先行研究に基づいて、「管理職を目指すに当たり必要な研修機会が女性に不足しているだけであり、管理職を目指す女性は少なくない」という仮説を立て、プログラムのターゲットを女性管理職及び管理職候補（ポテンシャル層）に定め、実施した。講座中の実践的な演習やロールモデルセミナーが、リーダーシップ力育成や意識改革に有効に働き、リーダーシップ力に自信がついた者が 88.9%（受講前に自信がなかった 48.1%→0%）、満足度も 96.3%と高かった。また、受講生所属企業の人事部・幹部の方からも、「社員の成長が著しい」、「今後もこのようなプログラムを継続開講して欲しい」などの声が寄せられた。外部評価も高く、有識者会議でも「完成度の高いプログラムであり、是非企業へもアプローチして欲しい」と評価が高かった。ジェンダー平等の観点からも意義のあることであり、次年度は自走化の予定である。

今年度は「女性のためのリカレント教育推進協議会」の会長校を、リカレント教育でも先駆的な日本女子大学から引き継がせていただき、3月中旬に「アントレプレナーとリカレント」というテーマでシンポジウムを開催した。参加校のリカレント履修生を交えてのパネルディスカッションも大変好評で、リカレント教育のニーズや履修の成果を示唆する内容であった。本学は、今年度で丸 5 年が経過したが、リカレント修了生も 250 名にのぼる。これも、連携協力機関との緊密な連携活動があったからこそ、と心より御礼申し上げます。

今後も、京都女子大学第 2 次グランドビジョン（2020-2029）、Topics04「女性の活躍をささえるリカレント教育の充実」のため、多様な立場にある女性のためのキャリアアップ、社会復帰を支えるリカレント教育課程の充実に努めてまいります。

京都女子大学の使命である、自己の能力を活かして社会に貢献する自立した女性人材を養成するために、「生涯学び続けることのできる大学」を目標に、今後も更なる活動を産官学連携で展開していく所存です。皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

女性地域リーダー養成プログラム 2022 年度開講科目一覧

科目名	担当者	開講時間	概要
連携活動入門	竹安 栄子	後期/火 6	連携活動に従事するにあたって、知っておくべき基礎的な事項や身につけておくべき倫理事項、さらに多様な連携活動の実態について講義する。なぜ今、連携活動が社会的に求められているのか、大学生がさまざまな連携活動に従事することの意義が何なのかを、具体的な事例を交えながら講義する。
地域連携講座 A1	久保 雅子	後期/木 6	本授業は関西に拠点を持つ企業の協力の下、担当者を招へいして組み立てられている。半期 15 回のうち最初の 5 回はガイダンスと以降の授業で必要となる知識の習得を目指す。最初のガイダンスと最後の全体総括を担当者で行う。
地域連携講座 A2	大妻女子大学 (表 真美)	後期 集中講義	この授業では益々多様化する社会の価値観に対し、世界と日本そして地域社会とその文化特質に関し特にサービス&ホスピタリティの視点から、その中心的産業の第一線で活躍するゲスト講師の講義と各企業へのフィールドワークを通して、自らの価値観醸成を目的とする。
地域連携講座 B1	2022 年度不開講		
地域連携講座 B2	中山 玲子	前期/月 2	行政や企業、各種組織の実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた京都の社会や産業の実態を講じてもらうオムニバス形式の授業。京都市の姿と京都市が直面する課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が地域貢献活動に主体的に取り組むよう学生の行動を促進することを目的としている。
産学連携講座 A1	一力 知一	後期/金 5	現役のビジネスパーソンである教員が教える社会で活躍する人材に必要なビジネススキルの入門編。現在の社会状況や変化などを実例をもとに表面的でない、本質的な社会の見方を学び、視野を広げる。学んだ知識を活用し、自分なりの社会課題の見つけ方および解決する方向性などをまとめていき、最後にプレゼンテーション実践実習などを通じて自分のスキルとして獲得する。
産学連携講座 A2	野村証券株式会社 (寄附講座)	後期/火 6	資本市場に求められる役割とは何か。激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンを考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。
産学連携講座 A3	大妻女子大学 (表 真美)	後期 集中講義	5 日間で 5 名の講師が、それぞれの分野についての基本や歴史背景の講義、実演、実習を行う。基本的な調理実習においても、プロとの違いを体験してもらい、プロフェッショナルとは何なのかを理解することを目的とする。
産学連携講座 B1	株式会社朝日新聞社 (寄附講座)	前期/火 5	新聞記者(講師)が様々な社会問題やコミュニケーションをテーマに講義をする。学生はそれぞれの意見を論作文として提出。講師が添削し講評する。また、記事を使って社会問題を考える。なお、ニュースの動向などにより、授業計画を変更することがある。
産学連携講座 B2	DaiGas エナジー株式会社 (寄附講座)	前期/木 6	ガス・電気の基礎知識(ガスの輸入先や供給方法)、国のエネルギー施策、時代の背景等についての解説を加えながら身近なエネルギーから環境問題、社会情勢について関する考える機会とする。
産学連携講座 B3	連合京都・企業各組織 (烏蘭格日案)	前期/木 2	労働組合や企業・公務などの実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた働くことに必要な基礎知識について学ぶ、オムニバス形式の授業。働くことについての課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が主体的に取り組むこと、自らの働き方を学生が考え行動できるように促進することを目的としている。
連携課題研究	宮原 佑貴子	通年 集中講義	本授業では、京都の地において長年育まれてきた伝統的産業である着物の染色技術の奥深さを知るとともに、現代の課題を発見し、解決に導く手法を考察する。
連携課題研究	桂 まに子	通年 集中講義	本授業では、受講生が地域社会の担い手となることを想定し、地域で様々な仕事や活動を行う上で必要となる社会との関わり方や、地域の情報を収集・整理・編集して正確に発信する技術力を身につけることを目指す。具体的には、地域や企業、公共施設等との連携の課題を整理し、プロジェクトテーマを設定し、受講生のこれまでの学びや情報技術を活かした問題解決を試みる。

連携活動入門

連携活動事始め～連携活動にチャレンジ～

【担当教員】竹安 栄子

【授業形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 連携活動の社会的意義について理解する。
2. 連携活動の基礎知識を身につける。
3. 連携活動への従事が自分の成長を促すものであることを体験する。

【学位授与の方針との関連】

大学や企業、さらには市民として担うべき社会的責任を、具体的・実践的に学ぶことによって、「学位授与の方針」の「高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚」を養うことを目指している。

【授業計画】

受講期間中、1度は学外での活動に参加する。なお活動先は、こちらから紹介し、初めての学生も安心して受講できるよう配慮している。2021年度の学外活動先は以下の通り。毎年受講生からは、「参加してよかった」との感想が寄せられている。

1. 「七條大橋のお掃除と交流会」
2. 五条坂茶わん坂ネットワーク主催「わん碗 ONE 展開催準備への協力」
3. 祇園新橋景観づくり協議会主催「祇園新橋の落ち葉掃き」
4. 祇園新橋景観づくり協議会主催「お火焚祭 準備、祭事・後片付け」他

第1回 オリエンテーション

第2回 I. イントロダクション

II. 地域社会を知ろう

1. 連携活動とは？なぜ、今求められるのか
2. 「地域社会」の構造と地域課題：京都市東山区を事例に

第3回 II. 地域社会を知ろう

3. 京都市を学ぶ

ゲストスピーカー：京都市役所総合政策局

第4回 II. 地域社会を知ろう

4. 京都市の大学政策

ゲストスピーカー：大学コンソーシアム京都

第5回 II. 地域社会を知ろう

5. 東山区ウォーキングのためのオリエンテーション

- ①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く
- ②祇園新橋地区を歩く
- ③連携活動に求められる倫理事項

第6回・第7回 II. 地域社会を知ろう

6. 東山区ウォーキング：多様な顔をもつ東山区

- ①大学の周辺地域（馬町から六原地区）を歩く
- ②大学の周辺地域（今熊野商店街）を歩く
- ③祇園新橋地区を歩く

第8回 III. 人口減少社会の地域課題

7. 人口減少と女性の社会参画

- ①日本の近未来の姿
- ②女性の社会参画

第9回 IV. 市民によるまちづくり活動

8. まちづくりの担い手としての市民

- ①京都のまちづくり
- ②町内会を中心とした活動

第10回 V. 京都女子大学の連携活動

9. 京都女子大学地域連携研究センターの社会連携活動

第11回 VI. 企業の社会的責任

10. CSR と SDGs

- ①なぜ CSR なのか
- ②CSR の歴史
- ③SDGs と企業

第12回 VI. 企業の社会的責任

11. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進

ゲストスピーカー：① NTT 西日本「NTT 西日本における SDGs の取り組み」

第13回 VI. 企業の社会的責任

12. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進

ゲストスピーカー：② NTT 西日本「地方創生にむけた、地域と企業の連携活動（CSR）の取り組み」

第14回 VII. 連携活動実践（連携実践活動の代休なし）

第15回 実践活動体験発表会（全員のプレゼンテーション

をネットワーク上で視聴）

○女性リーダー養成プログラムとは

2017年から開講した女性リーダー養成プログラムは、各学科、専攻で習得した専門性に加えて、地域課題の発見能力、問題解決能力、実践力を備えた行動できる女性、地域リーダーとなり得る女性の養成を目的としている。2019年以降に入学の学生には、共通領域副専攻プログラムとなっている。

地域連携講座 A1

現状の女性活躍の課題を知り、ロールモデルに学び、自己のキャリアデザインを描く

【担当】久保 雅子

【授業の形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 社会やビジネスを取り巻く環境が大きく変わっていく中で、女性の就業環境や課題を把握する
2. 女性活躍推進法について理解する
3. 女性活躍推進の課題を様々な業種・職種で活躍する女性リーダーたちの講義を通して考える
4. 自分自身のキャリアデザインを、主体的に考える

【学位授与の方針との関連】

地域経済社会についての知識・理解や女性ロールモデルを通して、自分自身のキャリアを思考・判断する事ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと本講義受講後のアウトプット「自分のキャリア設計図作成」を説明
- 第2回 「働く女性」を取り巻く現状
- 第3回 働き方の多様化を踏まえた社会保障
- 第4回 女性のキャリアを支援する法律「女性活躍推進法」について
- 第5回 企業における女性活躍推進の課題
- 第6回 地方公務員／大阪府政策企画部
- 第7回 地方公務員／教員
- 第8回 教育機関／大学職員
- 第9回 企業／経理
- 第10回 企業／人事部
- 第11回 企業／営業
- 第12回 企業／SE
- 第13回 ホテル／支配人
- 第14回 キャリア支援・教育等／（副業）
- 第15回 まとめ 自分のキャリア設計図作成

地域連携講座 A2

地域文化理解

【担当】大妻女子大学（表 真美）

【授業の形態】対面授業

【授業の到達目標】

この授業では、対象となる産業界（航空業界・ホテル業界・放送業界）の理解と合わせ、似て非なるサービスとホスピタリティの相違、そして世界から評価される日本の“おもてなし”の本質を理解し自ら実践できる基礎作りを目的とする。

【学位授与の方針との関連】

社会性・自立性

【授業計画】

- 第1回 開講挨拶～オリエンテーション「サービスとホスピタリティとは…」
- 第2回 【ホテル業界—1】観光立国への課題「世界&日本のホテルについて」
- 第3回 グループディスカッション
- 第4回 DVD鑑賞「コンシェルジュとは…」
- 第5回 【ホテル業界—2】東京ステーションホテルの歴史と役割
- 第6回 【ホテル業界—3】ホテルの業務と総支配人の使命〔第5・6回後、午後ホテル視察〕
- 第7回 【航空業界—1】航空産業論
- 第8回 【航空業界—2】JAL スカイが目指すサービス—1
- 第9回 【航空業界—3】JAL スカイが目指すサービス—2
- 第10回 【航空業界—4】航空業務（羽田空港）について（オペレーションセンター・他）
- 第11回 【空港業務—5】安全管理について（安全啓発センター・整備工場）〔第10・11回は現地フィールドワーク〕
- 第12回 【放送業界—1】インバウンド増加の光と影
- 第13回 【放送業界—2】世界の中の日本—1
- 第14回 【放送業界—3】世界の中の日本—2
- 第15回 授業総括～閉講挨拶「めざすべき新たな社会とは…」

地域連携講座 B2

京都の社会と連携活動

【担当】中山 玲子

【授業の形態】対面型授業

【授業の到達目標】

1. 地域社会としての京都の実態を理解する。
2. 京都を事例として、現代の日本の地域社会が抱える課題を理解する。
3. 地域社会の多角的側面を理解する。
4. 行政をはじめとした各種分野の実態を理解する。
5. 地域社会が市民の力で成り立っていることを理解する。
6. 学生が地域社会の構成員として行動することが社会から期待されていることを理解する。

【学位授与の方針との関連】

京都の社会を多角的に理解することによって、社会についての広い教養を培うことが出来る。また社会を構成する多様な組織・機関の役割を学ぶことによって、組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働する重要性を理解する。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション：本講義の概要や目的など受講に当たって理解しておくべき事項について
- 第2回 京都女子大学が取り組んでいる地域連携や貢献活動について
- 第3回 京都市役所：京都市の人口・世帯、産業など京都市の概要と京都市役所の役割について
- 第4回 東山区役所：市次期東山区基本計画「住んでこそ！東山プロジェクト」人口減少が著しい東山区について、現状と課題、今後の取組について
- 第5回 京都刑務所：「負の回転ドア」という表現に象徴されているように、日本の犯罪者の半数が再犯者で占められている。なぜ犯罪を繰り返すのか、それを解消するには市民として何を必要があるのか、刑務所で犯罪者の更生に尽力する刑務官による講義
- 第6回 京都保護観察所：刑務所に入るほどではない軽微な犯罪を犯した青少年や刑期を終えて刑務所を出所した人たちの生活と更生を支える制度を構成活動の最前線で日々努力する人たちの声を通して学ぶ

第7回 NPO 京都景観フォーラム：世界から称賛される京都の景観がどのようにして維持されているのか、だれの手によって保全されているのか、現場の経験に基づいて講義

第8回 京都銀行：地方銀行と都市銀行の違いから始まって、地方銀行が地域経済に果たす役割について

第9回 招徳酒造：京都の伝統的地場産業の一つである伏見の酒造業の歴史から現状を学ぶと共に、現在酒造メーカーが直面する課題について話を聞く。招徳酒造は伏見で唯一の女性社長の蔵

第10回 ハイアットリージェンシー京都：世界に展開するグローバルホテルであるハイアットリージェンシー京都の総支配人による講義。グローバル企業としてのハイアットの理念から「京都」のハイアットとしての特徴をどのように経営に生かしているのか、さらにグローバル企業から見た京都の観光と地域創生貢献について

第11回 京都市中央卸売市場：「京の台所」を支える中央卸売市場の機能と役割

第12回 朝日新聞社：全国紙と地方紙の違い、新聞が地域社会に果たす役割など、記者の目から見た地域社会について

第13回 東山区社会福祉協議会：高齢化率 33%という東山区の高齢者の生活実態を、社会福祉の最前線から講義

第14回 京都ジョブパーク：本学学生の就職状況や就活の現状を通して京都の産業を考える

第15回 総括

産学連携講座 A1

大学で学んだ多くのことを社会で活かすためのスキルを身に付け、社会に貢献できる人材へのステップアップを！

【担当】一力 知一

【授業の形態】対面授業

【授業の到達目標】

- ・社会・ビジネスにおいて必要なスキルである論理的思考、仮説思考についての知識を獲得する
- ・論理的思考、仮説思考を活用し、自分なりの社会課題設定などができるようになる
- ・財務諸表の分析などの経営分析手法などから企業の戦

- 略などを読み解けるようになる
- ・課題設定やそこに至る分析などのテーマに基づくプレゼンテーションで相手に伝える力を養う
- ・プレゼン力と同じくらい重要な質問力を養う
- ・実社会で活躍するロールモデル(自分が目指したい社会人像)をおぼろげなりでもイメージできはじめる

【学位授与の方針との関連】

論理的思考、仮説思考、ビジネス戦略構築フレームワークなどを学び、プレゼンテーション実習などを通してコミュニケーションスキルを獲得することまた、講義で教える手法を使っているかという評価に加えて、取り上げるテーマ(社会課題やSDGsなど)に対して自分なりのユニーク性を加えて評価する。

【授業計画】

- 第1回 ビジネスとは？企業の存在意義について
- 第2回 判断におけるココロの科学(アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)など)について
- 第3回 ビジネスを成功に導く戦略構築モデル：AS IS-To Be モデルについて
- 第4回 ビジネスを成功に導く思考モデル：仮説思考・論理的思考について
- 第5回 社会課題のとらえ方：暮らしとつながりのある企業の事例をつかって
- 第6回 社会課題事例：障がい者のおかれている現実について
- 第7回 就活にも役立つ企業の見方「財務データから企業をみると今まで違ったものが見えてくる」について
- 第8回 ビジネス界で今、はやっているテーマ：「どうしてNetflixはレンタルビデオ会社から世界的な映像制作・配信会社に変貌しえたのか」など
- 第9回 企業の競争力の考え方「表の競争力と裏の競争力」について
- 第10回 企業が取り組むSDGs、DEI(Diversity, Equity and Inclusion)の事例について
- 第11回 これからの企業が必要としていること：データサイエンスとは
- 第12回 プレゼンテーションスキルセミナー
- 第13回 プレゼンテーション実践実習1(プレゼン力、質問力、思考レッスン)
- 第14回 プレゼンテーション実践実習2(プレゼン力、質

問力、思考レッスン)

- 第15回 プレゼンテーション実践実習3(プレゼン力、質問力、思考レッスン)

産学連携講座 A2

基礎知識としくみの理解

【担当】野村証券株式会社(寄附講義)

【授業の形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

証券・金融市場関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や資産形成の際に必要な知識を習得する。

【学位授与の方針との関連】

証券・金融市場について知識を深め、社会全般についての教養を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス・経済情報の捉え方
 - 第2回 金融資本市場の役割とその変化
 - 第3回 債券市場の役割と投資の考え方
 - 第4回 株式市場の役割と投資の考え方
 - 第5回 投資信託の役割とその仕組み
 - 第6回 リスク・リターンとポートフォリオ分析
 - 第7回 外国為替相場とその変動要因
 - 第8回 産業展望と投資の考え方
 - 第9回 行動ファイナンス～投資家心理について～
 - 第10回 ライフプランと資産形成
 - 第11回 公的年金制度について
 - 第12回 確定拠出年金について
 - 第13回 DCポートフォリオの作成
 - 第14回 マネープランの作成
 - 第15回 まとめ(知識チェックテスト、アンケート)
- ※講師の都合等により、授業計画に若干の変更が生じる場合があります。

産学連携講座 A3

地域文化理解（食版）

【担当】大妻女子大学（表 真美）

【授業の形態】対面授業

【授業の到達目標】

この授業では、世界や日本、地域社会の多様な食と食文化に関し、国内外の第一線で活躍する食のプロフェッショナルによる講義と調理実習、フィールドスタディを通じ、食についての基本的理解と価値観の醸成を目的とする。

【学位授与の方針との関連】

知識・理解

【授業計画】

- 第1回 講義「フランス料理の真髄」 三國清三
- 第2回 調理実習及び試食「きのこのスープ、カプチーノ仕立て」 三國清三
- 第3回 講義と実演「パティシエの基本技術」 浅井拓也
- 第4回 調理実習及び試食「カスタードクリームたっぷりのシュークリーム」 浅井拓也
- 第5回 講義「日本料理の歴史について」 平塚未来
- 第6回 講義と実演「日本人のうま味を極める」、「出汁の違いや美味しいご飯の炊き方」 平塚未来
- 第7回 調理実習及び試食「美味しいご飯と出汁の実践」 平塚未来
- 第8回 講義と実演「あなたの知らないビーガン、ベジタリアンの世界」、「ビーガン料理実演」 本道佳子
- 第9回 調理実習と試食「和ビーガン料理2品」 本道佳子
- 第10回 講義「発想の転換から生まれる未来の食」 本道佳子
- 第11回 講義「食を通じた街づくりについて」 井上友美
- 第12回 丸の内エリア視察「食や地方創世をテーマにした施設の視察」 井上友美
- 第13回 調理実習及び試食「スポーツと栄養素の食べ合わせ学ぶ調理実習」 井上祐子
- 第14回 講義「調理実習で学んだこと」 井上祐子
- 第15回 講義「総括及び料理人の社会貢献」 三國清三

産学連携講座 B1

新聞を通じて、現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養う。意見を出し合い、多様な視点を持つ。

【担当】株式会社朝日新聞社（寄附講義）

【授業の形態】対面型授業

【授業の到達目標】

1. 新聞を通じ情報リテラシーを高める。
2. 社会問題について「自分の意見」「多様な視点」を持つ。
3. 社会で求められる「書く力」「伝える力」を養う。

【学位授与の方針との関連】

1. 新聞記事を通して、社会についての広い教養を培うことが出来る
2. 論作文指導によって、日本語の正確な理解力と表現力を鍛えることが出来る
3. 論作文の執筆を通して批判的・合理的な思考を展開する力を磨く
4. 新聞記事に表現された記者や専門家の考え方を学ぶことによって、高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を学ぶ

【授業計画】

- 第1回 「伝える」とは
- 第2回 メディアの特性
- 第3回 コミュニケーションと就活
- 第4回 文章の書き方①
- 第5回 震災報道から考える①
- 第6回 震災報道から考える②
- 第7回 文章の書き方②
- 第8回 文章の書き方③
- 第9回 文章の書き方④
- 第10回 国内問題を考える
- 第11回 国際問題を考える
- 第12回 インタビューの手法
- 第13回 実名と匿名
- 第14回 「平和」「民主主義」のゆくえ
- 第15回 講義まとめ

産学連携講座 B2

エネルギーを通してみる社会変化と環境対策

【担当】 DaiGas エナジー株式会社（寄附講義）

【授業の形態】 オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

電気・ガスを中心にエネルギーを通じて、日本・世界の抱える環境問題や社会情勢に関する見聞を広め、今後の社会生活に必要な知識を習得する。

【学位授与の方針との関連】

1. 主体的に課題を発見・解決できる。
2. 高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
3. 専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

【授業計画】

- 第1回 私たちの暮らしとエネルギー
- 第2回 社会とエネルギー
- 第3回 社会の変化とコミュニティ・デザインについて
考え・実践する
- 第4回 世界の先端組織が実践する『対話』の新常識
- 第5回 ガス事業者による保安の取組み
- 第6回 日本のエネルギー政策について（都市ガス）
- 第7回 家庭用ガス機器開発について（小テスト）
- 第8回 ガス事業者のPR戦略
- 第9回 日本のエネルギー供給と天然ガスの調達
- 第10回 工場跡地からイノベーション拠点へ
- 第11回 京都市リサーチパークが展開するイノベーション
創発活動とは
- 第12回 海外事業について
- 第13回 温暖化対策に向けた世界の動向と日本の政策
- 第14回 ガス事業者の温暖化対策の取組み
- 第15回 エネルギー会社と地域共創（小テスト）

産学連携講座 B3

働く女性のための基礎講座

【担当】 烏蘭格日楽

【授業の形態】 対面型授業

【授業の到達目標】

1. 働く上で知っておくべき基礎知識を習得する。
2. 働く楽しさや労働環境の実態を学ぶ。

3. 将来働くことに備えて、職業や企業を選択できる力を養う。

【学位授与の方針との関連】

働くことの基礎知識を得る。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
 - ・なぜ連合が寄附講座を行うか（連合京都）
 - ・本講義の概要や目的、成績評価、進め方など
- 第2回 ワークルールを考える1（連合京都）
 - 労働組合とは：労働三法・三権、労働組合の活動領域、就業規則と労働協約
- 第3回 ワークルールを考える2（連合本部）
 - 労働組合の新たな運動スタイルの確立に向けて：働くことの軸とともにジェンダー平等と多様性に満ちた安心社会の実現
- 第4回 ワークルールを考える3（電機連合）
 - 労働時間、ワーク・ライフ・バランスの取れた働き方とは：労働時間、育児・介護休業法など
- 第5回 ワークルールを考える4（情報労連）
 - 雇用、正規雇用／非正規雇用について：雇用契約、解雇・退職、雇用形態の違い
- 第6回 ワークルールを考える5（JAM京滋）
 - 賃金：賃金とは、最低賃金、賃金制度、春闘
- 第7回 京都府の取組み（奨学金返済、ジョブパーク等）
 - 京都府の若者就労支援
- 第8回 労働者の生活設計を考える（労金、こくみん共済coop）
 - 労働者のためのライフプラン支援の取組み
- 第9回 職場から1（日教組）
 - 教育の職場の特色・状況・働き方
- 第10回 職場から2（自動車総連）
 - 製造業の職場の特色・状況・働き方
- 第11回 職場から3（UAゼンセン）
 - 宿泊業 or レジャー産業の職場の特色・状況・働き方
- 第12回 職場から4（電力総連）
 - エネルギー産業の職場の特色・状況・働き方
- 第13回 職場から5（全労金）
 - 金融業の職場の特色・状況・働き方
- 第14回 職場から6（自治労）
 - 公務員の職場の特色・状況・働き方
- 第15回 授業のまとめ（担当教員、連合京都）
 - 質問への解答、総括

連携課題研究

京都の伝統的染織産業の参加体験型課題研究

【担当教員】宮原 佑貴子

【授業の形態】対面型授業

【授業の到達目標】

1. 京都の伝統的染織産業の技術や背景についての知識を得る。
2. 染織技術を体験し、固有の魅力や特色について知る。
3. 自らの体験と知識を融合し、オリジナルの提案と発表をおこなう。

【学位授与の方針との関連】

【社会性・自律性】

学外の方々と交流するため、社会の規範やルールに従い責任感のある行動をおこなう。また、グループワークによって、組織の中での役割を認識し、協調性を持ちながら個々の力を発揮する機会を創出する。伝統染織産業が抱える課題を発見し、解決するための提案をおこなうことにより、産業継承への貢献を目指す

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：京都の伝統染織産業と京都女子大学の取り組み
- 第2回 京都の伝統的産業と京都女子大学の取り組み
- 第3回 伝統的染織産業を活用した取り組みについてのリサーチ発表
- 第4回 伝統的染織産業を活用した取り組みについてのリサーチ発表（講評、ディスカッション）
- 第5回 京都の伝統的染色技法：特別講義「マドレー染の変遷と技術について」生活造形学科青木美保子教授
- 第6回 染色技術の体験について（事前学習）
- 第7回 染色技術の体験について（計画）
- 第8回 染色技術の体験と取材（準備、設営）
- 第9回 染色技術の体験と取材（ロールプレイング）
- 第10回 染色技術の体験と取材（実施）
- 第11回 染色技術の体験と取材（取材）
- 第12回 染色技術の体験と取材（聞き取り調査）
- 第13回 プラン提案の企画書作成
- 第14回 プラン提案の発表、合評（1）
- 第15回 プラン提案の発表、合評（2）

連携課題研究

地域連携課題を発見し、専門科目での学びや情報技術を活かした問題解決策を考える

【担当教員】桂 まに子

【授業の形態】対面授業&遠隔双方向型授業

【授業の到達目標】

1. 地域課題の探索。
2. 研究テーマに関する情報収集。
（文献、ウェブ、現地、関係者など）
3. 情報技術を用いた編集・発信。
（Wikipedia、OpenStreetMap など）
4. 自ら発信した経験をもとに、連携活動を進展させるための提案を行う。

【学位授与の方針との関連】

女性地域リーダー養成プログラムの一環である本科目においては、主体的に地域の課題を発見し、地域の中で他者との対話や議論を繰り返しながら課題解決策を自ら提案することを目指す。課題の内容によっては、情報通信技術(ICT)を活用した地域貢献の手法を学び、実践することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：Problem Based Learning について
- 第2回 地域や企業との連携課題について整理する
- 第3回 プロジェクト準備（連携課題テーマの設定、情報収集）
- 第4回 Wikipedia を用いた地域情報の編集・発信について
- 第5回 OpenStreetMap を用いた地域情報の編集・発信について
- 第6回 プロジェクト設計（ミニプレゼンテーション、ディスカッション）
- 第7回 プロジェクト実行（1）
- 第8回 プロジェクト実行（2）
- 第9回 プロジェクト実行（3）
- 第10回 中間報告（ミニプレゼンテーション、ディスカッション）
- 第11回 プロジェクト実行（4）
- 第12回 プロジェクト実行（5）
- 第13回 プロジェクト実行（6）
- 第14回 研究レポートの作成
- 第15回 最終報告・講評（最終プレゼンテーション、ディスカッション）

2022年度 連携プロジェクト補助事業一覧

「連携プロジェクト補助事業」は、教職員及び学生が主体的に取り組む京都市内における地域連携・社会連携活動を支援することを目的とした補助事業（費用の全額もしくは一部を補助）である。活動にあたっては、下記のイシュー別4領域（いずれか、または複数）と関連づけながら取り組むものとしている。

- (1) 子育てと高齢者支援
- (2) 安心安全・まちづくり支援
- (3) 東山の歴史と文化
- (4) 京都の産業支援

コロナ禍が収束しない中ではあったが、2022年度も活動に制限を受けながらも、3つのイシューで展開された。

事業名	申請者	連携先	イシュー別4領域のうち該当する領域
京都刑務所との木育による造形プロジェクト 【→ P11～P12】	矢野 真	京都刑務所	①子育てと高齢者支援
音楽を通じた生涯学習活動 【→ P13～P14】	ガハブカ 奈美	社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会 NPO 法人「音の風」	①子育てと高齢者支援
電車／駅構内での性暴力防止を目指して －学生目線のポスター作成－ 【→ P15～P16】	市川 ひろみ	京阪電鉄株式会社	②安心安全・まちづくり支援
ローカル寺院のオープンデータ化 【→ P17～P18】	桂 まに子	京都府立図書館 浄土真宗本願寺派総合研究所 明覚寺	③京都・東山の歴史と文化
駅ナカアートプロジェクト ～京都をアートで元気に～ 【→ P19～P20】	江口 淑子	京都市交通局 企画総務部営業推進課	②安心安全・まちづくり支援

京都刑務所との木育による造形プロジェクト

●連携先：京都刑務所

発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真
4 回生 堀池 真希

1. 事業の背景と目的

京都女子大学と京都刑務所の連携協定の一環として、刑務所が主催する「京都矯正展」に平成 28 年度から造形ワークショップ（ワクワク木育キャラバン）による連携を行ってきた。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、対面による造形ワークショップが実施できない状況となった。そこで、木育教材としての「ひねりゴマ・ぶんぶんゴマ」の制作を行い、それを東山区の保育園を中心に寄贈することにより、これまでの事業につながる連携として検討を行ってきた。今年度も対面による活動ができなかったため、昨年度と同様の連携事業として計画した。

まず、新たに SDGs の視点を取り入れることを検討し、項目 4（質の高い教育をみんなに）の教育的効果や項目 15（陸の豊かさを守ろう）の木よさを学ぶ機会、項目 7（エネルギーをみんなに。そしてクリーンに）、12（つくる責任、つかう責任）の観点から、再利用材（端材を利用）としての木材を使用することが挙げられた。

次に、昨年度の取り組みにおいて、保育現場からコマの回転を生かしたデザインを求める意見があったことや、低年齢児にも扱いやすいようにするなど、子どもの発達にあわせたものとして改善する必要があることが挙げられた。

こうしたことから、学生から挙げられた課題及び幼稚園・保育園からのフィードバック、さらには対象となる子どもの発達を踏まえつつ、SDGs の視点を取り入れた教材制作の改善を行った上で、その効果についての更なる検討を行う必要がでてきた。

そこで、“ワクワク木育キャラバン”として、SDGs の視点を取り入れた造形教材としての改善、その効果の更なる検討について、活動の導入動画と学生デザインの改良版ひねりゴマ（SDGs ひねりゴマ）の制作を行った。それらを通して、学生たちの「保育者の専門性」としてのコミュニケーション能力の育成を図る造形教材を検討し、地域へ貢献することを本事業の目的とした。

2. 事業の方法

本事業では、対面形式のワークショップに代わる木育教材として、事前に制作した玩具を幼稚園・保育園に寄贈し、子どもが遊ぶ姿を先生方からアンケートを通じてフィードバックしてもらう方法で検討を行った。

本計画では、SDGs を子どもに理解してもらうために SDGs の項目をデザインしたひねりゴマ（17 個 1 セット）を考案した。デザインからフィードバックまでの工程は、
①ひねりゴマのデザインを 4 回生学生・10 名が行う。

- ② そのデザインをもとに京都刑務所内の作業部門で出た端材を中心とした国産材の桧を使って制作する。
 - ③ 活動の導入（SDGs や遊び方を含む）として学生による木育動画を作成し、SDGs ひねりゴマを園に配布する。
 - ④ 子どもたちの反応について、アンケートフォームを用いた園からのフィードバックを行う。
- 以上の手順で行った。

なお、今回の事業について、調査等の協力者に対し、研究の目的及びプライバシーの保護等の倫理的配慮を伝え、データの使用等について協力者からの同意を得ている。

3. 事業の成果

a. SDGs を遊びながら学ぶためのデザイン

昨年度の検討事項をもとに、ひねりゴマの形状については、年小児も簡単に回すことができるよう軸の長さを長くし、両手で回すことができるデザインとした。また、コマの盤の大きさを大きくし、軸の長さとの調整を行うことにより、年小児でも回しやすいデザインに決定した。

盤面のデザインについては、SDGs の 17 項目を子どもに分かりやすく、身近で簡単な言葉やイラストで表現し、木材とデザインのレーザー加工を京都刑務所処遇部作業部門に依頼した。特に、回転したときのコマの模様にも配慮するとともに、色についての検討も行った。



写真1 昨年度のひねりゴマとの比較

また、ひねりゴマのデザインをする上で、子どもにメッセージを伝える、または学びにつながるデザインとなるように配慮した。

さらに材料調達においては、木育そして SDGs の定義に基づき、他製品の木材加工時の際に出る端材を用いることとし、具体的に国産材の桧を用いて制作を行った。

ひねりゴマの総数 44 セット（748 個）、約 40 園程度の幼

稚園・保育園への寄贈を予定した。

学生により、軸の取り付けや着色等の仕上げを一つずつ丁寧にいき、配布のために袋詰めを行った。



写真2 一つひとつ仕上げを行う

b. SDGs ひねりゴマの完成

SDGs ひねりゴマの仕上げでは、軸の取り付けや色付け、検品を一つひとつ行い、17項目を1セットとして完成させた。



写真3 完成した17項目のSDGs ひねりゴマ

c. アンケート・動画の作成

子どもにも理解できるように、完成したひねりゴマの使い方とSDGsの説明等を入れた動画を作成し、アンケートフォームによる回答を求めた。



写真4 動画で遊び方やSDGsについて理解する

「コマ遊び」に関するアンケート

このアンケートは、「コマ遊び」を使用した保育についての感想や意識調査を目的としたものです。調査の結果は統計的処理のみに扱い、個人を特定することはありません。情報の管理には十分に配慮しますので、以下のアンケートへのご協力をお願いいたします。

京都女子大学 矢野真・京都教育大学 田爪宏二

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

1. 「コマ遊び」のイメージについて
おたずねします。次のような印象をどのくらい感じますか。当てはまる番号を選択してください。



動画二次元バーコード



アンケート用
二次元バーコード

4. まとめ

今回の事業では、対面による活動ができなかったものの、SDGsの視点を取り入れた木育教材としての導入動画の活用やアンケートによる検討などを通じて、地域連携活動としての新たな学びの可能性を得ることができた。

また、回答をいただいている園からは、子どもたちが楽しく遊ぶ様子の画像や、新たな遊び方などの提案などをいただいております。こうした幼稚園・保育園からのフィードバックを踏まえ、再度教材作成の検討を行い、その効果について検討を行ってまいります。

謝辞

昨年度に引き続き「京都矯正展」が、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止を余儀なくされるなか、今回のゼミにおける提案を短い時間で快くお引き受けくださった京都刑務所処遇部作業部門の皆様には厚く御礼申し上げます。

音楽を通じた生涯学習活動

●連携先：社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会・NPO法人「音の風」

発達教育学部教育学科・音楽教育学専攻 教授 ガハプカ 奈美

1. 実施の背景と目的

これまで呼吸法と歌唱を関連付けて活動を継続して行ってきたが、ここ数年間においてはコロナ禍により様々な変更を余儀なくされた。一方で、昨年度変更した、訪問せずにDVDに音楽会を収録してお届けする方法は、これまで私たちがライブでこそ音楽会である、といった凝り固まった考え方から転じたことで、より多くの人々に視聴していただくことが叶った。

このことを受け、DVD音楽会のプログラム内容をより多彩なものにするために、声楽のゼミに加え、呼吸を駆使して演奏を可能とする管楽器のゼミと協働し、DVDに音楽会を収録した。普段はあまり目にするこのない楽器の紹介なども行い、「音楽」への興味をより一層強く持って音楽会に参加いただけるような多彩なプログラム内容を提供できるようにしたい考えを持ち実施への準備を行った。

実施にあたって、訪問が叶わない施設・団体へ郵送することを中心に実施したが、オンライン等でつなぐことで双方向通信が可能である施設・団体もある事から、機器を使用して音楽会を届けてほしいとリクエストもあった。しかし、以下の様な問題点の解決に至らず今年度は断念した。①双方向通信が叶った場合に、音楽提供側（大学）と先方とに音のズレが生じ、我々が思い描く双方向型演奏会の形にならないのではないかとの意見が多くみられた。②音のズレが生じることを前提にしながら、事前にリズム譜などを郵送するなどして、リズム体験コーナーを用意するなど、受け手側への負担が大きくなる。③Wi-Fiなどネット環境に問題が生じた場合、それらを解消するための手段を持ち合わせていない。

そこで、昨年度に引き続き今年度においても、「教育基本法」第3条『国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることが出来るよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に活かすことのできる社会の実現が図られなければならない』とあるように、学生が学ぶこと、あるいは「音楽振興法」にある『音楽から生涯学習を考えるとときに欠かせないものであることである』ことを体験し感じることで自発的な活動へと導くために、学生主体でDVDに収めるための音楽会の作成に集中することとした。また、その際には、国際的に比較しても平均寿命の高い位置にある日本において、「生涯学習」が大切な概念としてとらえられ、参加するすべての者において教育が学校内のみで完結するものではないことを、音楽を通して学ぶことを中心にして実施することを共通認識としたうえで実施に至った。また、これまで行ってこなかった「アンケート」調査を

行う事が出来た。



写真1：〈さんぼ〉を演奏する様子



写真2：〈星に願いを〉を演奏する様子

2. 事業実施における工夫

本事業では、学生たちが主体となって行う事を大きな目的としており、音楽会の送付先の事をよく知った上で、プログラムや本事業のあり方を検討する必要がある。そこでまず声楽ゼミ生（5名）と管楽器ゼミ生（6名）の合同ゼミを開催し、本事業の重要性などの説明を行った。このことは、大学周辺における地域社会の抱えている問題点などを知る事にもつながったと感じている。

その話し合いの中で、学生たちは、

- ① 演奏形態の決定や選曲
- ② プログラムの作成
- ③ 各施設にお配りするパンフレットの作成（写真3・4）
- ④ 動画撮影
- ⑤ 撮影した動画の編集
- ⑥ 編集した動画をDVDに焼く
- ⑦ 梱包
- ⑧ 郵送

などの決定が想定されるとし、

・どのような形態で演奏するか考える

（例）重唱、管楽器6重奏、アカペラ etc.

→今年度は、（声楽）4曲、（管楽器）4曲、声楽・管楽

- 器合同演奏を1曲演奏することに決定
- ・演奏会で演奏する楽曲を選ぶ
 - ・演奏する楽曲の順番を決める
 - ・楽曲のパートや演奏する楽器の割り振り
 - ・各MC担当者の決定

など詳細を少しずつ決定していった。

最終的に決定したプログラムは以下。

1. さんぽ 〈管楽器6重奏〉(写真1)
2. カントリーロード 〈重唱〉～MC～
3. ディズニーメドレー 〈クラリネット・ホルン2重奏〉
4. 星に願いを 〈アカペラ〉(写真2) ～MC～
5. 雪 〈重唱〉※振付指導を含める ～MC～
6. 銀河鉄道999 〈サクソフォン4重奏〉～MC～
7. ひいらぎかざろう 〈重唱〉
8. クリスマスメドレー 〈管楽器6重奏〉～MC～
9. Believe 〈声楽・管楽器合同演奏〉※手話付き



写真3：作成冊子表紙



写真4：曲目紹介の工夫

3. まとめ

学生たちは、多様な方々に視聴いただける様に、以下のようなことに関して、自主的に工夫を凝らした。

- ①譜面隠しや衣装、動画内の字幕など視覚的効果を取り入れた。



写真5：聴き取りにくさを感じる方への字幕スーパー

- ②プログラムのフォントやレイアウトを工夫して見やすくした(写真4)
 - ③配布時期や児童館が含まれていることから、クリスマスの要素を取り込んだ。
 - ④子どもから高齢の方まで幅広い年代に向けた選曲にした。
 - ⑤書くことが困難である利用者さんのためにも、アンケート用紙に工夫した。(例：選択制)
- 一方で、以下のような点では困難を感じた。

- ①動画制作は未経験者ばかりで、手探りの作業になったため、当初予定よりも時間がかかってしまった。
- ②2つのゼミ合同であったため、プログラム曲を合わせる時間の確保が困難であった。

様々な困難がありつつも常に「観てくださる相手」を意識して活動を進めたことで、多くの学びが得られた。

また、送付先からアンケートの返信があり、DVD音楽会や冊子に関して喜んでいただいた様子を知ることが出来た。その中で、工夫した点が伝わっていたり、プログラムに対するリクエストがあったりしたことで大きな喜びを得、対面での音楽会でなくとも、音楽で人を喜ばせられること、またより多くの方々に音楽を届けることが出来ることを知れたことは、何よりの成果である。

[学生から寄せられた意見]

- ・このプロジェクトを通して、普段は交流のない、他のゼミとの交流することができた。
- ・日頃の取り組み(演奏)を発表出来たことは、これからの学修における自信となった。
- ・間接的であっても、画面越しに地域と交流をもつ貴重な経験となった。
- ・学生主体で企画を進めたことで、やりがいを感じた。



謝辞

連携先である、社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会様およびNPO 法人「音の風」様には、いつも我々の活動をご理解、ご協力下さり、心より感謝申し上げます。

電車／駅構内での性暴力防止を目指して —学生目線のポスター作成—

●連携先：京阪電気鉄道株式会社

法学部 法学科 市川ひろみ
家政学部 生活造形学科 江口 淑子

目的

公共交通機関である鉄道で日常的に発生している性暴力に注意喚起し、誰もが安心して利用できる環境を整える。学生は、自分たちが学んでいるジェンダーや法学の観点から、社会で当然とされていることについても、おかしいと思うことについて問題提起し、行動することで自らが社会の一員であり、社会を変える存在でもあることを実感できる経験とする。

意義

痴漢や盗撮は被害者に深刻な精神的・身体的な被害をもたらすにもかかわらず、重大な性暴力とはみなされていない。さらには、現在の痴漢・盗撮防止呼びかけポスターは被害者となりうる人に注意喚起（混雑を避ける・スカートを手で押さえるなど）したり、被害にあった時に「助けて」と声をあげてを求めたりするものが多い。

そのようなポスターは、電車／駅構内での性暴力を抑制することには効果が望めないばかりか、被害者に自責の念を抱かせる危険性がある。

加害行為を予防するのに重要な役割を担っているのは、被害者ではなく、犯罪行為が行われている／行われそうな場に居合わせた人々である。見て見ぬふりをせず、被害者の味方であることを示すことで、被害者を孤立させず、加害者に犯罪行為を行っていることを知らせることによって、性暴力の発生を抑止できる。

また、ポスター作成を学生による社会に向けた取り組みとして、次の学年の学生に引き継ぐことで、学生が自らの活動を客観的に捉え、その意義を再確認することができる。さらには、後輩たちにとっては身近にロールモデルが存在することで活動してみたいと思える環境を整えることができる。

経緯 後輩へのバトンタッチ

この取り組みは2020年12月14日（月）に本学（F校舎）にて、学生9名、京都府警鉄道警察隊隊員4名、教員3名で意見交換を実施したことから始まった。従来一般的であった被害に遭わないよう呼びかけるポスターに違和感を感じた学生が、性犯罪に向き合う警察官の方々と意見交換できたことで、学生も担当者も犯罪取締の現場の事情を知り、ポスター表現で注意する点などについても示唆を得た。この学びを活かすために共同でポスターなどを作成するなどの協力を模索した結果、4月には京都府警鉄道警察隊および阪急電鉄株式会社とそれぞれポスターを作成する合意に至った。

2021年4月には、参加学生全員で改めて問題意識を確認し、警察班、阪急班に分かれてポスター作成に取り組んだ。警察班は9月、阪急班は12月に完成したポスターを公表する記者会見を行った。

その後、法学部3回生であった3名（川口桃佳、高山浅黄、戸川琴乃）が、次年度も後輩たちに引き続き活動してほしいとの思いから次年度に向けて準備を進めた。

京都府鉄道警察隊、阪急電鉄は、共に学生とポスターを共同で作成し、社会に向けて問題提起することに大きな意義があるという認識を共有していたが、それぞれの事情で2023年度は京女と共同できなかった。そこで、2022年2月に行った京都府議、京都市議の方々との意見交換会で言及されていた京阪電気鉄道株式会社に協力を依頼した。協力先への依頼も学生と共に行い、5月に、学生と担当教員2名で会社へ赴いて活動について説明した。

2022年7月の法学部専門科目「平和と女性」（3回生開講・学科開放科目）で「平和を創る女性」の事例として、4回生となった3名がポスター作成の活動報告を行い、自ら作成した「募集要項（実質的な活動計画）」を配布し、23年度に活動したい学生を募集した。これに応じた4名（法学部法学科片山真波（4回生）、塩川瑤子（4回生）、文学部史学科中村明日美（3回生）、現代社会学部現代社会学科山下遥香（3回生）と、2022年度にデザインを担当した家政学部造形学科小島定菜（4回生）が新たなチームとしてポスター作成に取り組むこととなった。

また、本学生涯学習講座「被害者を責めない社会を目指して—性暴力について考え・行動した学生の実践から—」（7月23日・オンライン開催）では、学生2名（高山、戸川）と教員（市川）が、ポスター作成の経緯・意義および、自らの学びについて紹介し、参加者と議論した。学生として声を上げることで、社会変革への活動ができた経験から、声を上げることをあきらめないことの重要性を確認した。受講生からは「他人事ではなく自分事として考えることの大切を学んだ」、「机上の学問だけではない取り組みは素晴らしいと思った」、「新しい発見や気づきをたくさん得られ、日々の暮らし、行動に即活かせるたいへん充実した内だった」などの反響があった。学生にとっても幅広い年代の受講生と直接意見交換することができた経験は貴重であった。

京阪電鉄との協力

新しいメンバーが10月4日から新しいポスター作成に取り組みはじめた。先輩からの助言も受けつつ、12月の報道向けプレゼンテーションまで、ほぼ毎週、火曜日4・5講時に集まり、コンセプト（何を訴えたいか）、標語、デザイン、

公表方法などについて話し合った。

今年度は、「痴漢・盗撮を目撃した時、私達にできること」をコンセプトとし、具体的な行動の一つとしてスマートフォンを利用した声掛けを提案する内容とした。この方法が、



声をかける方に最もハードルが低く、声をかけられる方にも侵襲性が小さいと判断した。ポスターは、1枚目で痴漢行為かもしれないと感じた周囲の人たちの気づいた時に、加害行為を止めたいと思ってもどうすればいいか戸惑うこともある様子と、そこから「自分にできること」を考えて「声をかけてみよう」としている様子を表現した。



2枚目では、かざされたスマートフォンに「ありがとう」と応じる様子を表現し、被害者を孤立させないという意思を示した。スマートフォン表示の画面を「かいにゆうさん」と名付け、QRコードからダウンロードできるようにしている。

QRコードからアクセスできる本学地域連携研究センターHPには、〈伝えたいこと〉、〈痴漢・盗撮に第三者が介入する方法〉、〈被害にあった方へ〉、〈加害をしてしまった方へ〉、〈第三者の方へ〉と5つにわけて情報提供している。特に、今年度は、これまであまり注目されてこなかった加害行為をし

てしまう人が相談できる窓口を紹介している。これは、加害行為そのものを減少させるためには、加害者に働きかけ

る必要があると考えたからである。相談窓口として掲載している各団体には学生が直接問い合わせて、了解を得た。

12月17日にF校舎ラウンド法廷で京阪電車の方々とともにプレゼンテーションを行った。新聞やテレビが取材し大きく報道した。



NHKの取材を受ける様子

12月17日にF校舎ラウンド法廷で京阪電車の方々とともにプレゼンテーションを行った。新聞やテレビが取材し大きく報道した。

ポスターと駅構内ディスプレイには京阪電鉄全駅および全車両および全駅において1月13日から2023年3月31日まで掲示された。



車内掲出の様子



天満駅構内掲出の様子

反響

ポスタープレゼンテーションの際には各社報道機関の取材があり、京都新聞、毎日新聞、京都民報、朝日新聞、NHK大阪などで大きく報道された。

学生は、自分たちの思いをしっかりと受けとめていただくことができ、異なる意見であってもきちんと自分たちが伝えようとするものの大切さを実感できた。また、この取り組みがメディアにも大きく取り上げられ、自分たちが感じている違和感をそのままにせず、社会に一石を投じることができた体験は、大きな自信につながった。

ローカル寺院のオープンデータ化

●連携先：京都市立図書館・浄土真宗本願寺派総合研究所・明覚寺

図書館司書課程 桂 まに子

1. 目的・概要

昨年度、浄土真宗本願寺派総合研究所（下京区）で研究員の方々と「真宗文化の評価と記憶」についての勉強会を重ねる中、自坊のHPを作成・運営しているのは、宗門寺院の2割に満たないことが分かった。全国のローカル寺院（地元のお寺）の多くが公式HPやSNSのような発信手段を持っていないため、ウェブ上でお寺の情報を探すには、個人ブログや観光サイトに頼る他ないのが現状である。時代に即した図書館サービス（地域連携・地域貢献）を提供するには、情報の海に埋もれているローカル情報をオープンデータ化し、正確かつ客観的な情報をウェブ上に残していくことが急務であると考え。

このような考えのもと、今年度はローカル寺院の新規記事をWikipediaに加えるための調査や現地訪問を行い、寺院情報の発信に微力ながら貢献したい。本プロジェクトに参加する図書館司書課程（図書館総合演習）の受講生は、次年度に図書館実習を控えている。卒業後、地域の図書館に就職することを想定し、学生たちが当該地域の情報を収集・整理して正確に発信する技術力を習得することも目的の1つである。

2022年度の地域連携プロジェクト「ローカル寺院のオープンデータ化」では、最初に「Wikipediaにまだないローカル項目」を題材に執筆の練習を行った。次に、京都市東山区および下京区を対象に寺院調査（寺院名、ウェブ情報の有無）を行い、執筆したい寺院を選定した。宏山寺、光瀬寺、一念寺、慶證寺、明覚寺が候補に挙がり、事前調べをして執筆に備えたが、最終的には、現地でのフィールドワークが可能となった明覚寺（下京区）を訪問し、Wikipedia上で新規記事を執筆・公開した。

2. Wikipediaにまだないローカル項目

「フリー百科事典」という名の通り、Wikipediaの項目数は豊富である。検索するとまずWikipediaにヒットした経験は誰しもあるだろうが、弱点もある。それは、ローカル情報を検索したときである。ローカル項目の中でも、地域の文化や歴史、産業、文学、人、食などの分野において、既に有名なモノや多くの関心が集まっているコトは項目が存在し、記事の内容も充実している。人気な記事は書き手が多いため、不足している箇所を補い合い、良記事へと近づいていく。例えば、「八坂神社」の編集履歴を見ると、2004年3月から2023年2月までの間、常に加筆がなされており、多くの人の手で記事が育てられていることが分かる。

一方、Wikipediaにまだないローカル項目の特徴は、観

光名所ではなく、あまりにローカルすぎて地元でしか知られていない。誰もが書きたくなる対象ではなく、誰もが書けるわけでもない。書き手が現れないのであれば、地域の図書館が執筆役を担えるのではないか。図書館員が執筆しなくとも、図書館が所蔵する郷土資料・地域資料を用いて地元の方がローカル記事を執筆する機会を提供することができる。今回は、学生たちが見つけてきた「地元では有名なのにWikipediaに記事がなかった」もの（20項目）の新規執筆を目指し、司書課程で学んだリサーチスキルを駆使しながら情報収集と執筆練習を経験した。いずれのローカル項目も京女生によってWikipediaに種が蒔かれたことになる。

<寺社>

吉祥寺（香川）、御澤神社（滋賀）、教学寺（大阪）、八大龍王神感寺（大阪）

<史跡>

女良古墳（和歌山）、音羽城跡（滋賀）、田中邸のむく（大阪）

<地名>

黒鳥山公園（大阪）、和地山公園（静岡）、猫の細道（広島）、島ノ瀬ダム（和歌山）

<施設>

伊丹市立子ども文化科学館（兵庫）、みなべ町立図書館（和歌山）

<食べ物>

加賀丸いも（石川）、すこ（福井）、のっぺいうどん（滋賀）、鹿饅頭（兵庫）

<その他>

枚方五六市（大阪）、ゆずるの足湯（大阪）、むすび丸（宮城）

3. ローカル寺院がWikipediaに期待すること

『全国寺院名鑑 改定2版 近畿篇』（1976）で確認できた寺院のうち、Wikipediaに記事があるのは東山区が63寺院（26%）、下京区が19寺院（22%）であった。浄土真宗本願寺派全体で見ても、10,109寺院中、Wikipediaに項目があるのは329寺院しかない（2023年2月現在）。

浄土真宗本願寺派総合研究所の研究員も「HPのあるお寺は少なく、ウェブ上に情報のないお寺は存在しないも同然」と危機感を抱いていた。特に、同名の寺院は非常に多く、これらをウェブ上で上手く整理・案内できないかと思案していたこともあり、Wikipediaの仕組みを有用しながらローカル寺院の情報を正しく発信できる点をメリットに感じたようである。

研究所では、研究員の一人が早速 Wikipedia 執筆に挑戦し、他の寺院がこれに続けるよう、サンプルとなる自坊の記事「圓成寺（福井県若狭町）」を完成させた。自坊のことを調べるために福井県立図書館を訪ね、関連資料を案内してもらってレファレンスサービスまで経験されたとのこと。お寺と図書館が無縁でないことを示す一例となった。

本プロジェクトで新規記事を執筆することとなった明覚寺は、公式 HP や SNS を使ったウェブ上の情報発信に積極的な寺院である。ただし、Wikipedia に自坊の項目はまだない。HP に載せている情報はあくまで基本情報のため、寺の歴史を正確に記録して伝えているわけではない。明覚寺の若住職も実は自坊の歴史をあまり知らないと言う。自坊は HP から情報を公開していても、連絡を取りたい相手寺院の情報がウェブになくて困ることがあるとも。住職は、ウェブ上に正確かつ客観的な寺院情報が公開されていくことは、寺院全体にとっても大きなメリットになるのではないかと Wikipedia の執筆に理解を示してくれた。

4. Wikipedia 執筆（明覚寺）

ローカル項目を用いた Wikipedia 執筆練習を経験した学生たちは、京都市下京区の「明覚寺」を執筆するために、京都女子大学図書館で文献調査をしたところ、『日本歴史地名体系』と新聞記事 9 件がヒットした。学生検索の時点では、関連論文は見つけられなかった。Wikipedia の記事は客観性が求められるため、関連文献に基づいた記述が必須なのだが、ローカルな情報はウェブやデータベースでなかなかヒットしない。

ローカルな調べ物に強いのは、地元の公共図書館である。今回は、京都府立図書館の調べ物相談（レファレンス）を利用した。その結果、データベース検索で得られなかった文献（「柱本瑞俊の自坊・明覚寺本堂と茶室について」「大谷探検隊員・柱本瑞俊資料と明覚寺資料：京都、桃源山明覚寺資料調査の現状報告」）を入手することができた。

事前調査を一通り済ませた後、明覚寺を訪問し、お寺の歴史や過去の住職の話に住職から直接伺った。そこでも新

しい情報を入手した（本堂や茶室が登録有形文化財指定、2022 年 10 月）。追加の文献も入手できた。前住職が独自にまとめた自坊の歴史『桃源山 明覚寺誌』（2002）は、自費出版本（出版流通に乗らない本）のため、京都府立図書館にも所蔵されていなかった。図書館で把握することが難しい領域の地域資料が寺院には存在することが分かり、新しい発見であった。



最後に、ここまでに入手した関連文献を用いながら Wikipedia で新規記事「明覚寺」を執筆した。学生たちが記事の中で分担して記述した項目は、「概要」「文化財」「人物」「活動」「アクセス」「脚注」「参考文献」「関連項目」「外部リンク」の 9 点である。寺の概観写真には Wikimedia Commons のデータを使用した。



5. 今後の展開

ウェブ情報からオリジナルテキストを生成する「Chat GPT」の登場により、ウェブ上に情報のない寺院は、今後ますます存在しないも同然となりかねない。そうならないためにも、今回の取り組みをきっかけに寺院のオープンデータ化の輪をもっと広げていきたい。現役の寺院のみならず、廃寺の記録を残す手法としても Wikipedia は有効であろう。

今回は大学生が執筆を経験したが、Wikipedia 記事の書き手には、当該寺院の住職や檀家、地元の方々、地元の図書館員も巻き込めると良い。誰でもローカル寺院の執筆を始められるようにするには、書き方マニュアルがあると便利である。研究所や図書館、寺院との連携を深めながら、ローカル寺院のオープンデータ化を継続・拡張していきたい。



駅ナカアートプロジェクトー京都をアートで元気にー

●連携先：京都市交通局・企画総務部営業推進課

家政学部 生活造形学科 准教授 江口 淑子

1. 背景

駅ナカアートプロジェクトは2011年から京都にある美術系の大学と、企業、行政の声かけからはじまった。京都女子大は2012年から地下鉄五条駅で参加し、今年度で10年目になる。コロナ禍で、京都市の財政が厳しく、予算がつかなくなり、参加を取りやめる大学もあったが、連携プロジェクト補助事業のおかげで参加することができた。京都を元気にしたいという思いで学生も参加した。

2. 目的

①多くの観光客が訪れる国際観光都市・京都の重要な都市装置である「京都市営地下鉄」の「駅」のイメージアップを図り、地下鉄を魅力的なものとして活性化することで、活力ある京都のまちづくりに寄与すること。②“大学のまち京都”ならではの取組として、芸術系大学の学生が中心となったアート作品の展開により、世界に誇る「文化芸術都市京都」確立への一助となること。③「学・産・官」三者の連携・交流を深め、学生に対し、京都を支える人材への成長の機会を提供すること。

3. 主催

KYOTO 駅ナカアートプロジェクト実行委員会
(10大学、京都市交通局、京都市文化市民局)

4. 実施駅及び参加校

烏丸線 国際会館駅……………京都精華大学
 烏丸線 松ヶ崎駅……………京都工芸繊維大学
 烏丸線 北大路駅鞍馬口駅…大谷大学
 烏丸線 五条駅……………京都女子大学
 東西線 六地藏駅……………京都教育大
 東西線 柳辻駅……………京都橘大学
 東西線 東山駅……………京都芸術大学
 東西線 三条京阪駅……………京都美術工芸大学
 東西線 二条城前駅……………京都市立芸術大学
 東西線 太秦天神川駅……………嵯峨美術大学

5. 協賛企業

株式会社インダ、有限会社画箋堂、京都信用金庫、京都地下鉄整備株式会社、株式会社サンエムカラー、株式会社ジイケイ京都、株式会社島津製作所、株式会社バックス画材、ポノス株式会社、村田機械株式会社、株式会社リーフ・パブリケーションズ

6. テーマ

プロジェクト全体：京都をアートで元気に
 京都女子大学：異世界旅行

7. 展示期間

2022年11月18日～2023年1月13日

8. 京都女子大学参加学生（全員3回生）

浅野満如、足立玲奈、伊藤ロレイン愛子、角橋美音、神田美央理、木暮陽菜、佐々岡ひなた、竹原早菜、出垣内夕菜、山根五和、山本奈々 広報物制作担当：山根五和

9. 学生制作過程

2022年8月9日（対面、一部ZOOM）
 プロジェクトの説明、テーマ、スケジュールについて展示場所によって3グループに分かれ、過去の展示や、他大学の展示資料を見て、テーマや手法についてのアイデア出しを行い、テーマを『異世界旅行』に決定
 8月18日（ZOOM）
 テーマにそって考えてきたラフ案のすり合わせ
 8月24日（ZOOM）
 五条駅現地調査の打ち合わせ
 8月26日、31日
 五条駅現地調査、計測、写真撮影
 9月7日（ZOOM）
 計測から作ったテンプレート DATA の共有と途中経過の報告
 9月21日-12月7日
 完成したデータからを大型プリンターで再剥離シール紙にプリントアウトして成型、梱包
 11月16日、30日、12月1日、7日、8日
 五条駅で清掃後、設置作業
 12月22日
 感謝状贈呈式 & ジョイントミーティングにてプレゼン
 2023年1月17日
 五条駅撤収作業

10. 広報物制作過程

2022年8月24日
 プロジェクト広報物のデザインを山根五和さんに依頼
 10月12日
 B1,B2、B3 ポスター、チラシ、フラッグのデザイン入稿
 10月25日
 デジタルサイネージ、パンフレット表紙入稿

11. 五条駅設置作業

10年間五条駅で展示していると、作業中に「今年も楽しみにしています」という声や、子どもが通った時の反応など喜んでくださることが実感できる。学生も直に作品の評価を感じることができ、はげみになっている。



12. 五条駅展示

コロナ禍で巣ごもりが続く中、少しでも非日常感を味わってもらいたい。五条駅を明るく活性化したいとおもい『異世界旅行』というテーマになった。大きく3つのパートに分かれている。柱：大きな4つの気球に見立て、異世界旅行に出発する。階段周り：地下と地上にまたがる不思議な空間を表現。恐竜の骨、気球工場や、空中空間。気球も旅している。地下通路：地下鉄の車内に見立て、電車で異世界旅行をする。窓の外に異世界が広がり、空想の世界に遊んで写真撮影スポットにもなる。

【柱】神田美央里、木暮陽菜、佐々岡ひなた、竹原早菜



【地下通路】浅野満如、足立玲奈、山根五和、山本奈々



【階段周り】伊藤ロレイン愛子、角橋美音、出垣内夕菜



13. 広報物

地下鉄車両で開催される美術館のイメージで制作した。車両のドアを美術館の展示に見立て、ジオラマ人形を観客として配置し、アート作品を鑑賞している様子を表現している。駅を利用する方に、まるで美術館にいるようにアートを楽しんでもらいたい、観る人と共にアートをつくりあげているという思いを込めた。



14. 感謝状贈呈式 & ジョイントミーティング

キャンパスプラザ京都にて、感謝状贈呈式とジョイントミーティングが12月22日開催された。門川京都市長から各大学の学生に感謝状が手渡され、学生が作品説明のプレゼンテーションを行い、他大学の方や、協賛企業の方からご意見、感想をいただいた。



15. おわりに

五条駅でプロジェクトの展示期間が終わり撤収作業を終えると駅が無機質な空間に戻り、学生たちの作品が、力を持ち、空間を明るく元気にしていたことが実感できる。コロナが終息に向かい、観光客は徐々にもどってきているが、苦しいときだからこそより意味のあるプロジェクトになったと思う。学生の活動を暖かく見守ってくださる地域の方、五条駅職員の方、交通局、貴重なご意見を下さる他大学、協賛企業の方に感謝いたします。

オンラインイベント・対面で再開の地域活動紹介

令和4年度第7回京女ラウンドテーブル開催報告

開催日時：令和5年2月20日(月)

第一部：10時～11時

第二部：13時～14時

開催方法：Zoom

内容：

<第一部>連携活動に関する報告・大学の取り組みの点検・評価（意見交換）

<第二部>連携プロジェクト報告会

出席機関：12機関

朝日新聞大阪本社	京都中央信用金庫
ハイアットリージェンシー京都	(一社)京都中小企業家同友会
(株)ワークアカデミー	京都府府民環境部
齊藤酒造(株)	京都府デジタル政策推進課
NTT西日本(株)	京都府警察本部
京都銀行	京都刑務所
京都信用金庫	

令和4年度も、本学と連携協定を締結する機関で構成される京女ラウンドテーブルを開催した。

ラウンドテーブルは、第一部の意見交換と第二部の連携プロジェクトの成果についての報告会で構成される。

第一部の報告会では、寄附講義の実施状況、令和5年度文科省委託事業申請予定である大学院接続リカレントについて連携推進課長小椋より説明がなされた。また、大学の取り組みの点検・評価について、カリキュラムと学生アンケートのデータに基づきながら、大学改革推進室長前川より詳細な説明がなされ、参加機関からも活発な意見が出された。連携機関よりいただいた貴重な意見をリカレントプログラムや学部・大学院の教育課程構築の参考にしていきたい。

【いただいた意見(一例)】

- ・新たなりカレントプログラムの理念（デジタルビジネスにおける事業企画力を有する「ブリッジパーソン」の育成）に大きく共感する。
- ・学部の4年間で、専門的な知識に加えて総合的な人間力をつけることを求めている。その仕組みをつくってほしい。
- ・ジェンダー教育研究所を擁する大学ならではの、ジェンダー視点を持ったキャリア教育をしてほしい。

第二部の連携プロジェクト報告会では、参画した学生や教員による発表がzoomで実施された。

参加機関からは、「先進的な取り組みで素晴らしい。他の在学学生や高校生にどのように伝えていくかが大切である。」「学生の着眼点や高度な技術力に驚いた。社会でも活躍してほしい。」等の高い評価をいただいた。

女性のためのリカレント推進協議会第4回セミナー「アントレプレナーとリカレント」を開催

女性のためのリカレント推進協議会(FRE)は、日本女子大学、関西学院大学、明治大学、福岡女子大学、京都光華女子大学、山梨大学、本学が連携し、女性のためのリカレント教育を推進に向けて、いまだ多く残されている課題の共有や解決の検討、そして社会的な認知を得るための啓発活動などを行っている。

2022年度からは、本学が幹事校を務め、第4回目となるシンポジウムをオンラインで開催した。

今回のシンポジウムは、「アントレプレナーとリカレント」というテーマで、起業家による講演やリカレント修了生と連携校の卒業生を招いたパネルディスカッションが行われた。シンポジウムでは、起業の実体験や、登壇者それぞれのアントレナーシップについて、一端を聞ける貴重な機会となった。

シンポジウムの登壇者の話を通じ、この不透明な時代に、創造性を駆使して、果敢にチャレンジする精神を育むのも、女性のためのリカレント教育が担うべき重要な役割のひとつであると実感できた。テーマ設定は、まさにリアルタイムだったといえる。



シンポジウムの最後には、それぞれの大学のリカレント教育についての報告があり、各大学の努力により、多岐にわたる展開がされていることが確認できた。



ごみアート監修とワークショップ

—保津川エコツアー『スポーツ・学習・芸術の秋をまるごと体験』—

家政学部 生活造形形学科 江口淑子

1. 背景

JTBの依頼で、保津川遊船企業組合と協力し、ラフティング体験と環境問題の講演、ごみアートワークショップがセットになった保津川エコツアーのごみアートの監修とワークショップを2人の学生と行った。亀岡在住の学生が積極的に参加してくれた。



ワークショップの様子と完成した作品

2. 概要

- ・ 8月2日参加学生2人とともに保津川の現場視察を行い、ゴミの現状について説明をうけ、ゴミアートの案を話し合う。
- ・ 8月28日 ZOOM 会議で学生と、制作過程について検討。
- ・ 9月7日保津川下り事務所でゴミアートのプレゼン。
- ・ 9月15日川の駅亀岡水辺公園にてWSの準備。
- ・ 9月学内で、ペットボトル集めと、プロトタイプ制作。
- ・ 10月2日大人2人・子供1人参加
- ・ 10月8日大人2人・子供1人参加
- ・ 10月9日大人12人・子供3人参加
- ・ 10月16日大人2人・子供3人参加

3. ゴミアートコンセプト

ゴミアートのコンセプトは、虹色アユモドキ(天然記念物で、亀岡の環境問題に取り組む姿勢を象徴する魚)を廃棄されたペットボトルでつくり、ゴミについて再認識する。

学生と地域の連携活動

～連携活動入門講座での取り組み～

連携活動入門では、地域の方々と接し、地域活動の実際を体験する時間を設けている。2022年度、学生たちは以下の地域でフィールドワークを行った。

1. 五条坂茶わん坂ネットワーク主催「わん碗 ONE 展開催準備への協力」
2. 祇園新橋景観づくり協議会主催「祇園新橋の落ち葉掃き」
3. 祇園新橋景観づくり協議会主催「お火焚祭 準備、祭事」など

参加した学生の声(祇園新橋景観づくり協議会の活動参加者レポートより抜粋)

- ・ 朝から掃除をすることは気分がよく、掃除が終わった後の石畳の見えるようになった道を見るととても気持ちがよかった。「自分も地域に貢献することができたのではないか。」と充実感があつた。
- ・ 授業で京都について学ぶだけでなく、実際に行動して自分自身の目で現状を知り、触れ合うことができたため、より理解を深めることが出来た。
- ・ コロナ禍で学校に来る機会も少なかったが、この授業のフィールドワークで実際に歩いて町の様子を観察することで、地域を身近に感じることができた。
- ・ 美しい景観を、次の世代へと繋ぐことが出来るようにしたいと考えた。

以上から、フィールドワークを行うことで、地域の方から直に地域の文化や伝統について学び、互いの交流を通じて、地域をより身近に感じられる有意義な体験ができたことが伺える。



▲祇園新橋での清掃のあとで



◀ 祇園新橋景観づくり協議会 会長から地域文化の説明を受ける学生たち

京都女子大学が提供する学びの場 (公開講座/生涯学習講座/リカレント教育課程)

京都女子大学では、大学の知を広く提供するため、以下3つの学びの場を設けている。

①公開講座 (対象：20代～男女 無料)

京都女子大学では、各学部学科の学問領域や附属施設(研究所)の研究領域にもとづいた講座や学外のゲストスピーカーを招いた学術的な公開講座を本学で実施。

②生涯学習講座 (対象：20代～男女 有料)

本学の教育・研究成果を社会に還元し、広く生涯学習の機会を提供するため、多様なテーマの連続講座「生涯学習講座」(有料・事前申込制)を開講。

③リカレント教育課程

2022年度は、社会人の学び直し場として、以下3つのコースでの講座を開講。

- ・キャンパス平日通学コース (対象：20代～ 女性のみ 有料)
- ・文系女子のためのDX入門コース (対象：20代～ 女性のみ 今年度に限り無料)
- ・管理職・女性リーダーコース (対象：20代～ 女性のみ 今年度に限り無料)

2022年度 公開講座一覧

講座名	講題	開催	講師	開講形態
食物栄養学科公開講座 食べ物の味と栄養	味を感じる仕組み	6/11(土)	本学准教授 成川 真隆	対面
	「体内時計 + 栄養学 = 時間栄養学」		日本時間栄養学会 理事・ 農研機構 上級研究員 大池 秀明	
児童学科公開講座	みんなでつくろう、錯視で工作 ～心理学と造形のコラボレーション	7/2(土)	京都教育大学 准教授 田爪 宏二	対面
			本学教授 矢野 真	
生活造形学科公開講座	京都で現代建築を設計すること	7/9(土)	東京工業大学教授 安田 幸一	対面
人文学会公開講座 外国につながる児童生徒に対する 教科学習支援方法とその展望	母語を活用した教科学習支援の理論と実践～ある公立中学校の取り組みを例に	10/19(水)	立命館大学文学部 教授 清田 淳子	対面
	保護者との協働による母語を活用した教科学習支援		本学国際交流センター 助教 滑川 恵理子	
こころの相談室公開講座 この指とまれ! 気になる こどもの発達支援	困ったときの発達相談・発達検査	10/30(日)	本学発達教育学部心理 学科 准教授 中井 靖	対面・ オン ライン
	地域で行う家族を含めた気になるこどもへの支援		関西学院大学教育学部 准教授 松井 学洋	
国文学科公開講座	観阿弥・犬王から世阿弥へ ―世阿弥自筆本<江口>の成立―	11/7(月)	文教大学名誉教授 田口 和夫	オン ライン
	一冊の中を、人々はどう歩いたか? ～江戸文芸にみる公共圏とその記録について～		早稲田大学特命教授 ロバート キャンベル	
史学科公開講座	徳川の平和と城郭	11/17(木)	本学文学部史学科 教授 母利 美和	対面
	西洋中世都市史研究の50年		本学文学部史学科 教授 山田 雅彦	
英文学科公開講座	フィンランドの外国語教育と教員養成	11/26(土)	本学 文学部英文学科 准教授 福島 知津子	オン ライン
	カズオ・イシグロの草稿を読む		本学 文学部英文学科 教授 荘中 孝之	

2022年度 公開講座一覧 つづき

講座名	講題	開催	講師	開講形態
生活デザイン研究所 公開講座 養源院と浅井長政	養源院と浅井長政	11/26(土)	滋賀県文化保護審議会 委員 本学非常勤講師 宇野 日出生	対面
	養源院にて室内見学		養源院 副住職 吉水 行友	
教育学科音楽教育学 専攻公開講座	ジェンダーと音楽：『女性』作曲家作品によるレクチャーコンサート	12/17(土)	作曲家 池田 萌	対面
			作曲家 久保田 翠	
			作曲家 山崎 燈里	
			作曲家 山根 明季子	
			サクソフォン 日下部 任良	
			本学発達教育学部教育 学科 助教(任期付) 坂本 光太 チューバ	
			ピアノ 杉山 萌嘉	
教育学科教育学専攻 公開講座 これからの教育を考 える—オルタナティブ教育 の観点から—	風越学園における教育	1/21(土)	学校法人軽井沢風越学園 校長 岩瀬 直樹	対面
	オランダ教育と探求		京都教育大学 名誉教授 村上 忠幸	
	対談		対談コーディネーター 本学発達教育学部教育 学科 教授 森 久佳	

■公開講座 参加者のコメント (抜粋)

2022年6月~7月 公開講座
児童学科公開講座 みんなでつくる錯視で工作～心理学と造形のコラボレーション ・今まで見るだけだった錯覚の仕組みを自分で作ったのが初めてだったので、とても新鮮で楽しかったです。とても繊細で、少しでもずれたら錯覚にならないと分かって、改めて面白さを実感しました。 ・説明もわかりやすく、アットホームな雰囲気でした。
生活造形学科公開講座 京都で現代建築を設計すること ・説明いただいた建築物はサステナビリティを大事にする現代に適応したものだと思います。 ・写真を使いながらとても分かりやすかったです。“京都”で建築するという、というテーマも良く、そのためもあってか安田先生の設計への姿勢や考え方を深掘りして伺えたという印象です。とても良い講義でした。

2022年度後期 公開講座
人文学会公開講座 外国につながる児童生徒に対する教科学習支援方法とその展望 母語を活用した教科学習支援の理論と実践～ある公立中学校の取り組みを例に保護者との協働による母語を活用した教科学習支援～ ・清田先生のお話の中で、言語の限界を認知の限界と混合してはいけないということが大変印象に残りました。 ・両先生とも単言語教育のみならず、教育の本質に関わる部分に踏み込んだ実践をされている点に特に感銘と啓発を受けた。特にCumminsの理論は認知や教育一般など他方面への応用が可能であると感じた。

こころの相談室公開講座 この指とまれ!気になるこどもの発達支援 困ったときの発達相談・発達検査/地域で行う家族を含めた気になるこどもへの支援 ・支援者、保護者、双方の立場からの視点で講義があり、分かりやすかったです。 ・保育園に勤めています。支援の必要な子がどのような状態にあるのかどんな風に見えたり聞こえたり感じたりそんな例をもっと知りたく、沢山の人の聞いてほしい講座でした。
史学科公開講座 徳川の平和と城郭/西洋中世都市史研究の50年 ・資料と画面両方を見ながら良かったです。滑舌がすばらしい!ていねいな説明に感服しました。西洋史のおもしろさに興味津々です。大学ならではの深化したお話しで興味深いものでした。 ・お城は形(特に天守閣)と展示物くらいしかこれまで見ていませんでしたが、専門の先生の講義を聴くと時代背景や立ち上った事情等も重要なことがわかり、知識も増えました。
英文学科公開講座 フィンランドの外国語教育と教員養成/カズオ・イシグロの草稿を読む ・大変興味深いお話しで、あらためて教育者としてどうあるべきかということについて考える機会となりました。フィンランドの教育制度については知らないことが多く、大変勉強になりました。
教育学科音楽教育学専攻公開講座 ジェンダーと音楽：『女性』作曲家作品によるレクチャーコンサート ・すごくおもしろかったです。演奏パートだけでなくトークパートも非常に攻めていて、考えさせられ、ここでしか聞けない内容だったと感じ、聞いて良かったです。 ・正直、自分の理解してきた音楽がとても狭い意味での音楽であったのかと思いました。そして今日で音楽の幅がぐんと広がりました。

2022年度前期生涯学習講座一覧

講座名	各回の講題	開催	講師	開講形態
生涯を通じた心身の健康を支える食育の重要性	①国民の食の現状と食育基本法、第4次食育推進基本計画の概要	6/4 (土)	副学長 本学栄養クリニック 中山 玲子 副クリニック長	オンライン
	②①妊娠期(胎児期)から思春期の食育			
	③②成人期から高齢期の食育			
被害者を責めない社会を目指して —性暴力について考え・行動した学生の実践から	①性暴力被害者を追い詰める日本社会	7/23(土)	本学教授	市川 ひろみ
	②痴漢防止ポスターを作成した学生の実践			
	③私たちにできること			
いつまでも、いくつになってもよい姿勢	①良い座り姿勢・立ち姿勢とは	7/2(土)	本学 地域連携研究センター 客員研究員	対面
	②姿勢がいいと呼吸もいい	7/9(土)		
	③良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法	7/16(土)		
親子で作る染色トートバック	①生地に染色(模様付け)	8/6(土)	本学教授 本学准教授 本学教授	榎本 雅穂 渡邊 敬子 青木 美保子
	②生地を整理、縫製			
	③縫製・仕上げ			

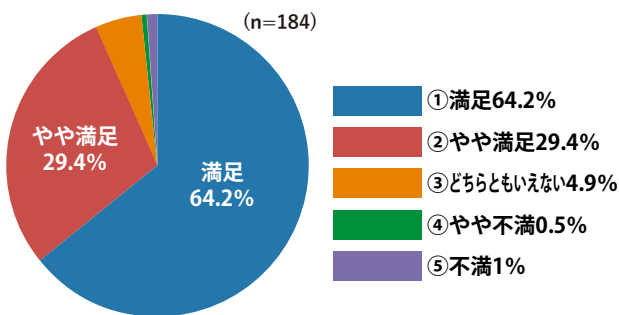
2022年度後期生涯学習講座一覧

講座名	各回の講題	開催	講師	開講形態
個別最適な学びを目指す、 子供が主役の小学校国語科授業づくり講座	①未来を生きる子供たちのための国語科の授業づくり—その多様な実践例	12/3(土)	本学教授	水戸部 修治
	②子供たちが主体的に取り組む交流の工夫			
	③主体的な読み手を育てる国語科「読むこと」の授業づくり			
いつまでも、いくつになってもよい姿勢	①良い座り姿勢・立ち姿勢とは	10/25(火)	本学 地域連携研究センター 客員研究員	対面
	②姿勢がいいと呼吸もいい	11/1(火)		
	③良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法	11/8(火)		
京都画壇の近代化 竹内栖鳳創作の核心	①栖鳳が語る感興と作画 巴里万博出品作品の検討	11/11(金)	本学名誉教授	廣田 孝
	②栖鳳が語る感興と作画 セントルイス万博出品作品の検討	11/18(金)		
	③栖鳳が語る感興と作画 「羅馬図」(明治36年について)	11/25(金)		
イスラームの基礎知識	①イスラームの興り	11/24(木)	本学教授	谷口 淳一
	②イスラームの展開	12/8(木)		
	③統一の中の多様性	12/22(木)		
手紙で学ぶ親鸞	①親鸞の手紙の基礎知識	2/7(火)	本学准教授	西 義人
	②親鸞の言う自力と他力とは	2/14(火)		
	③亡くなり方が問われない人生	2/21(火)		
鎌倉幕府の成立と北条氏	①伊豆の北条氏と流人頼朝	2/14(火)	宗教・文化研究所 客員教授・ 本学名誉教授	野口 実
	②源頼朝の挙兵と北条氏	2/21(火)		
	③京都守護北条時政と妻・牧の方	2/28(火)		

■生涯学習講座 アンケート結果

○満足度

満足、やや満足を合わせると全体の 93.6%となり、高い評価を得た。



○参加者の声 (抜粋)

講師への評価や、講座内容の分かりやすさ、楽しさなどへ、意見をいただき好評だった。

前期 生涯学習講座参加者の声
<p>生涯を通じた心身の健康を支える食育の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊富で高度な内容が大変分かりやすく講義をしていただき、自分や家族のためだけでなく、社会への発信の立場となるためにもっともっと中山先生より学びたいと思いました。 高齢者の栄養の事や、時間栄養学等、初めて聴く事もあり、先生のお話から興味が湧いてきて、もっと深く知りたいと思いました。 食育が生きていく上での基盤となり、いかに大切なものなのかを学びました。この講座を受けて、食を大切にしたいという想いが一層強くなりました。これから食への知識を深め、より良い食生活を通して自身のQOLを高めていきたいです。
<p>被害者を責めない社会を目指して —性暴力について考え・行動した学生の実践から—</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座を通して他人事ではなく自分事として考えることの大切さを学ぶことができました。また、元々興味があったジェンダー問題についてさらに詳しく知りたくなりました。 ポスター作成の学生さん、さらに受講者の方々と交えて積極的な遣り取りができ、楽しい受講となりました。 新しい発見や気づきをたくさん得られ、日々の暮らし、行動に即活かせるたいへん充実した内容で、生涯学習の名にふさわしい内容だったことに感銘を受けています。
<p>いつまでも、いくつになっても よい姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 人骨のしくみが分かった上で、体を動かすことがおもしろかったです。いつまでも (年のせいにはせず) よい姿勢でいたいと思いました。 1日目帰宅してから、娘に背が高くなったねと言われました。 骨格の構造を知って動かすことによって、ずいぶん動きが変化することが良くわかりました。
<p>親子で作る染色トートバック</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の方がいていねいにフォローしていただいたので、ほとんど子供だけで夏休みの工作に本格的なバッグが完成できました。 学生さんが根気良く教えてくださったことは、とても心に残る思い出になると思います。染めからの体験は貴重でした。学生さんの先生方への態度も気持ちのよいものでした。楽しかったです。

後期 生涯学習講座参加者の声
<p>個別最適な学びを目指す、子供が主役の小学校国語科授業づくり講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが主役の授業作りについてお話を聞いて、子ども自身が選択して友達に伝えたり気持ちを書くことが大切だと分りました。子どもが楽しく、伝えたいことを選んで友達と一緒に学べる授業を工夫して考えていきたいなと思いました。
<p>いつまでも、いくつになっても よい姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生がパワフルで楽しかったです。できれば実技で10時間くらい講座を受けたいです。 わかりやすい講座でした。先生がお元気で楽しくたくさん元気をもらったように思います。次の講座までとても楽しみでした。教えて頂いたことを生活の中に少しずつ取り入れていきます。とにかく楽しい時間でした。ありがとうございました。
<p>京都画壇の近代化 竹内栖鳳創作の核心</p> <ul style="list-style-type: none"> 西の栖鳳と言われる画家 (!) なので今回参加させていただきました。大変良い講座でした。(ビロードの友禪の構造がよく分かりました。) 竹内栖鳳の作品、特に画に興味を持ちました。 知らないことばかりで大変勉強になりました。もう少し長い (時間) 講座ができればうれしいです。
<p>イスラームの基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> イスラーム教について漠然としていた事が少し理解できたように思います。3回でかなり深く教えていただきました。 これから海外生活をする場合、必ずイスラーム教信者と接触するチャンスが生ずると思われます。その時の心構えとしてとても参考になりました。
<p>手紙で学ぶ親鸞</p> <ul style="list-style-type: none"> 何の知識もなく参加させて頂きましたが、先生のお話しがわかりやすく、あっという間に時間が過ぎていました。生涯学習の一環として大変良い機会を与えていただき感謝しております。
<p>鎌倉幕府の成立と北条氏</p> <ul style="list-style-type: none"> 3回とも新しく知る事が多く楽しく深く学べたように思いました。いろいろな側面からみる歴史の流れを教えてくださいました。 NHK「鎌倉殿」からの興味で本講座に参加しました。先生にとっても熱意をもって接していただき大変満足でした。



▲「手紙で学ぶ親鸞」の講義風景

「いつまでも いくつになっても よい姿勢」

地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子

1. 調査結果より

1-1 後期 初めての平日の午後、しかも 14 時から 15 時半

前期は今まで通り、土曜日の午後に開催、後期は平日開催にしてみました。

受講者 29 人、3 回目参加者 20 名、回収率 100%の結果は以下のようにまとめられる。

情報源: 90%が新聞広告から情報を得ていた。これは今までとほぼ同じ傾向にある。

開始時間: 85%がちょうどよかった一方、15%がやや遅かったとのことであった。参加者の 90% が女性であること、半数が京都市以外と京都府以外であることから、帰宅が遅くなると差しさわりのあると推察される。秋季は日没が早いので講座終了は 30 分はやめての開催を検討したい。

満足度: 満足とやや満足を併せると 95%と高評価であるが、全員が初回から連続参加されたわけではない。これまで、初回から 3 回目までに人数が減ったことはほぼなかったが、継続参加者が若干ではあるが減ったことを考えると、内容について考え直す点があると思われる。たぶん、やや難しかったのではないと思われる。

ご所属と年齢: 会社員がお一人以外は無職が 60%、自営業が 10%だった。年齢は 60 代が 60%、70 代が 20%と、やや高めだった。

感想抜粋

<平日開催と時間帯>

- 先生がパワフルで楽しかったです。できれば実技で 10 時間くらい受講を受けたいです。(女子大生にならないと! ? ははは) 平日の方が参加しやすいです。
- 3 回では足りないほど楽しくて勉強になりました。平日の方が出かけやすいです。
- とても楽しくためになりました。平日開催がうれしいです。
- 開催時間は参加しやすい時間帯でした。
- 午前でもよかったです (10:00 ごろからでも) 今回は仕事を休んで参加しましたので、できれば土曜日がいいです。
- 女性が多い夕方の方が忙しいから 13 時半から 2 時間位がよいのでは、私は平日で嬉しいです。仙骨、座骨さえ知らなかったが、わかって嬉しい。ひも巻きなど、なぜなのかわかり有意義でした。ありがとうございました。
- 実技でできたらいいです。平日でもかまいません。

<内容>

- 先生の話が楽しく知識が増えました。ありがとうございました

ました。また 2 回目してください。

- 聞いているだけでなく体を動かして楽しく学べました。ありがとうございました。
- お話も楽しく実技ワークもバランスよく盛りこまれあっという間でした。まったく眠たくならなかったです。だれでもできるワーク がよかったです。午前でもよかったです。
- 本当におもしろかったです。座り方や呼吸のやり方。自分の知りたかったことがわかって来るのが楽しみでした。
- わかりやすい講座でした。先生がお元気で楽しくたくさん元気をもらったように思います。次の講座までも楽しみでした。教えて頂いたこと生活の中に少しずつ取り入れていきます。とにかく楽しい時間でした。ありがとうございました。
- 聞いているだけでなく体を動かして楽しく学べました。ありがとうございました。
- 体操などをしているとき、理屈を理解してやれるのが良い

<もっと、したいというリクエスト>

- 内容もわかりやすく丁寧で実践しやすく無理が無く 続きを希望いたします。ぜひ Part II を検討お願いします。
- とても楽しかったです。3 回だけというのが残念。

<苦言>

- 少し早口なのか、理解不足である
- 写メはなかなかうまく撮れないので、なるべく紙資料を配布してほしい。
- ★配布資料は、全てのパワーポイントの画像をとりあげてはない。よって、気になるところは写真をどうぞとしたところそういう意見があった。
- 早口という指摘、それは、気を付けるよう心します。



お一人、モデルとして前に出たいただいて具体的にワークをしているところ。

1-2. 前期、これまで通りの土曜日開催、13時半から15時

受講者26人、3回目参加者22名、回収率100%の結果は以下のようにまとめられる。

情報源:86%の方が新聞広告から情報を得ていた。

ご所属と年齢:50代が27%、60代が41%だった。会社員が14%、パートが23%、公務員、自営業等であり、無職は41%だった。後期と雰囲気異なっていたのが裏付けられる。

半分以上が大阪からの参加であり、京都市内は14%だった。

講座への満足度は満足、やや満足を併せると100%だった。紐を5本に増やしたことが、より実践的だったために好評につながったと感じた。以下に個別意見を抜粋して示す。

<解剖学ベースの内容について>

- 解剖まで説明いただいて、理論的でわかりやすかった。実態に体験しながらできたが、いくつかわからないものもあった。できなくても、このようにしたらいいなど、アドバイスがあってよかった。
- 体の筋肉の使い方、骨等によって呼吸が変わる。姿勢がすべてだな～と思いました。
- 体の構造からわかり、正しい姿勢が理解できました。
- 骨格の標本など実際に触れたりできて、聞くだけでなく興味深く知る事が出来ました。
- 高齢者はなぜ猫背になるのかという疑問に対して解決できました。進め方とてもおもしろかった。ありがとうございました。
- 骨格の構造を知って動かすことによって、ずいぶん動きが変化することが良くわかりました。良い動かし方をすると体全体が良くなる。人間の体は正直ですごいです。
- 90分って長いかと思っていましたが、あつという間でした。たった3回でしたが、楽しく学ぶことができました。ちゃんと実践できるかな・・・?
- 実際に動きを先生がやってくださったので、理解しやすかった。

<プロフェッショナルに適用>

- 1日目帰宅してから、娘に背が高くなったねと言われました(ピアノ講師)。ピアノを練習する時、身体の使い方をよく考えられる様になりました。とても良かったです。ありがとうございました。

<特記したいこと、2点>

- 身長が1m78cmの方が、キッチンの高さが低すぎるために姿勢に苦労していると訴えてこられた。筆者はあれこれ試した結果、止まり木みたいなベンチを用意してそこに腰かけて腰の位置を低くする提案をした。受け入れられた。

- 人工股関節置換手術をされた方が、それに有効な紐の巻き方を問われた。そこで講習後その場でやってみて、提案した。筆者も片側だけ1週間巻いて暮らした結果、大変歩きやすくなる実感があった。



背中と頭に紐を巻く。胸が開く感じと背筋が伸びる感じを体感するワーク

2. 結果を踏まえての継続点と改善点

継続点:

- 骨格モデル等を準備して、姿勢と体の構造を結び付けた内容にする。
- これまで同様、座学ではあるが、実技を多用する。

改善点:

- 話し方、もっとゆっくり話す。同じ内容でもしつこいくらいにお伝えする。
- 調査項目に、所用時間の記入を求める。開催時間を決める際の資料としたい。現在は住まいの地域を聞いている。奈良、大阪、兵庫、滋賀と県外者が半数以上であることを踏まえると把握しておく方がよいだらう。

ありがたいことに、「3回では物足りない」「Part IIを望む」「もっと実技をしたい」等の感想をいただいた。

コロナ以前は、1回目の受講者を対象に主に実技を行うアドヴァンス講座を開催した。状況が許すなら、これも開催できたらもっと地域に還元できると考える。

リカレント教育課程

2022年度 リカレント教育課程概要

2022年度は、3コースを開設。

本学独自のプログラムである「キャンパス平日コース」、令和3年度文部科学省DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育事業として、「文系女子のためのDX入門コース」令和4年度文部科学省女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業として、「女性リーダー・管理職育成コース」の3コースを開設した。

▼京都女子大学シンボルの藤の花をモチーフとしたオープンバッジのデザイン



また、開設以来全修了生に対して授与されていた履修証明書に加えて、2022年度からは、世界共通の技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明・認証履修証明証であるオープンバッジの発行も付加した。

1. コース別概要 (表1)

	キャンパス平日通学コース	文系女子のためのDX入門コース	女性リーダー・管理職育成コース
受講時間数	120時間履修証明プログラム	60時間履修証明プログラム	60時間履修証明プログラム
メインターゲット	・キャリアブランクのある女性 ・育児休暇中の女性	・働いている女性 ・求職・転職を目指す女性	・リーダー候補(ポテンシャル層) ・管理職の女性
コースの概要	パソコン、簿記等、現在必須の基礎的なビジネススキルを身につけ、キャリアブランクから就業を目指す。	ビジネスに必要な統計スキルやAIリテラシーを身につけ、データサイエンティスト分野でアシスタントの仕事がこなせる入門レベルを目指す。	ポテンシャル層に必要とされるマネジメントスキルを身につけ、SDGsで求められる「サーバントリーダーシップ」を育成する。

2. 実施スケジュール (表2)

日時	内容	実施対象コース
2022年6月9日(木)	池上氏が語る女性のためのリカレント教育(リカレント説明会)実施 ※ウェビナー	全コース共通
2022年6月13日(月)～8月4日(木)	個別相談会 (Zoom・対面)実施	全コース共通
2022年7月23日(土)	個別相談会 (滋賀大学大津サテライトプラザ)	全コース共通
2022年7月30日(土)	個別相談会 (京都女子大学大阪オフィス)	全コース共通
2022年7月1日(金)～8月20日(土)	出願期間	キャンパス平日通学コース
2022年7月20日(水)～8月20日(土)	出願期間	DX入門コース/女性リーダー・管理職育成コース
2022年7月28日(木)	第1回 文部科学省リカレント事業実行委員会	
2022年9月3日(土)～9月5日(月)	面接	全コース共通
2022年9月8日(木)	第2回 文部科学省リカレント事業実行委員会	
2022年9月9日(金)	選考結果発表	全コース共通
2022年9月12日(月)～9月16日(金)	履修手続き期間	全コース共通
2022年9月17日(土)	オリエンテーション	全コース共通
2022年10月1日(土)	入校式	DX入門コース/女性リーダー・管理職育成コース
2022年10月3日(月)	入校式	キャンパス平日通学コース
2022年11月2日(水)	NTT西日本、福祉事業団への職場見学会を実施	DX入門コース
2022年11月4日(金)	大阪労働協会への職場見学会を実施	DX入門コース
2022年11月11日(金)	第1回 文部科学省令和4年度女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援に関する有識者会議 (zoom)	
2022年11月26日(土)	随時希望者にメンター相談開始	女性リーダー・管理職育成コース
2022年12月3日(土)	文部科学省から授業視察。受講生との意見交換を行う。	女性リーダー・管理職育成コース

日時	内容	実施対象コース
2022年 12月9日(金)	第29回 教育情報共有会「キャリアアップ・再就職を目指す女性を支える京都女子大学のリカレント教育課程はなぜ受講希望者が後を絶たないのか」に地域連携研究センター長中山と連携推進課長小椋が登壇	
2022年 12月15日(木)	第3回 文部科学省リカレント事業実行委員会	
2022年 12月19日(日)	京都中小企業家同友会との交流会を実施	DX 入門コース
2022年 12月26日(火)	キャリアカウンセリング実施	女性リーダー・管理職育成コース
2023年 1月7日(土)	交流セミナー「隣のデータサイエンティスト」1回目 講師：本学大学運営本部 大学改革推進室(IR担当) 田中貴久氏 開催	DX 入門コース
2023年 1月14日(土)	交流セミナー「隣のデータサイエンティスト」2回目 講師：NTT 西日本エンタープライズビジネス推進部門 デジタルデータビジネス担当の榎山 和也氏 開催	DX 入門コース
2023年 1月16日(月)	「氷河期世代の活躍支援セミナー」開催	
2023年 1月21日(土)	交流セミナー「隣のデータサイエンティスト」3回目 講師：株式会社 Rejou (リジョウイ) 代表取締役 菅由紀子氏開催	DX 入門コース
2023年 2月4日(土)	成果報告会	DX 入門コース
2023年 2月6日(月)	成果報告会	女性リーダー・管理職育成コース
2023年 2月16日(木)～2月21日(火)	リカレント評価部会(メール会議)	
2023年 2月18日(土)	成果報告会	キャンパス平日通学コース
2023年 2月24日(金)	第4回 文部科学省リカレント事業実行委員会	
2023年 2月25日(土)	修了式 (開講期間:2022年10月1日(土)～2023年3月31日(金) *対面授業の修了後は、オンデマンド授業や就業支援フォローを実施)	
2023年 3月2日(木)	第2回 文部科学省令和4年度女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援に関する有識者会議(zoom)	

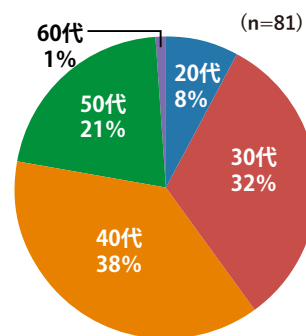
3. 2022 年度データ

●コース別志願人数と合格者数(表3)

	キャンパス 平日通学 コース	文系女子のた めの DX 入門 コース	女性リーダー・ 管理職育成 コース
定員	20名	30名	20名
志願者数	16名	89名	44名
合格者数	16名 (修了者:15名)	39名 (修了者:39名)	28名 (修了者:27名)
定員充足率	80%	130%	140%

●受講生の年齢(3コース合計)(図1)

40代を中心に、20代～60代まで幅広い年齢層が受講した。

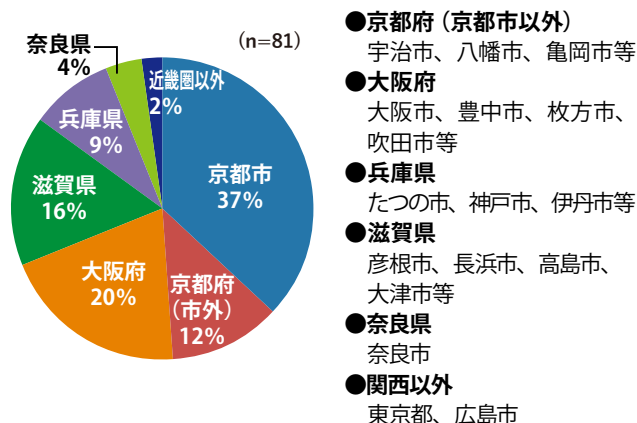


○コース別平均年齢(表4)

	平日通学 コース	文系女子のた めの DX 入門 コース	女性リーダー・ 管理職育成 コース
平均年齢	47.3 歳	40.6 歳	41.7 歳

●居住地(3コース合計)(図2)

京都市以外から過半数以上が通学した。女性リーダー・管理職育成コースでは、関西圏以外からの通学があった。

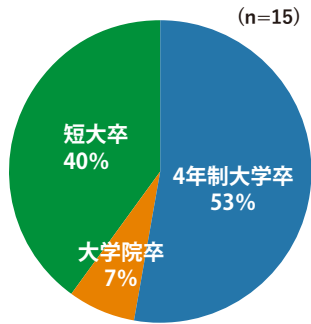


リカレント教育課程

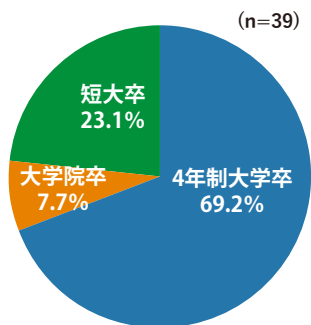
●最終学歴

4年制大学卒業が、全体の過半数を占めた。

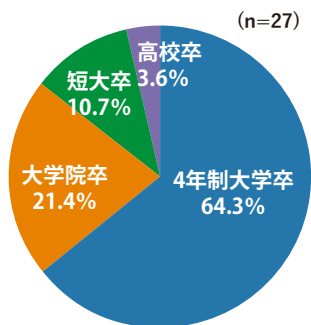
キャンパス平日通学コース (図3)



文系女子のためのDX入門コース (図4)



女性リーダー・管理職育成コース (図5)



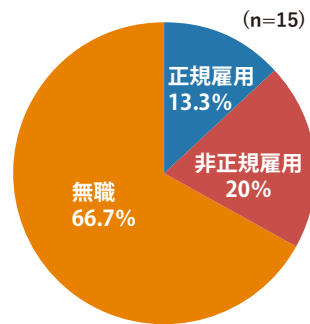
全体では、受講後の就業率は、82.6%となった。(キャンパス平日コース：53%、文系女子のためのDX入門コース94.8%、女性リーダー・管理職育成コース100%)

それぞれのコースの特徴を反映し、受講前の雇用形態や就業率は、大きく異なっている。

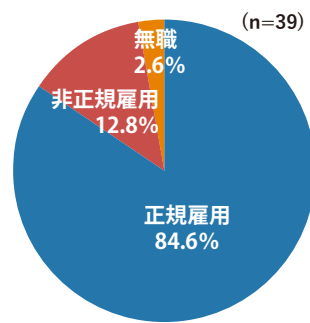
就業率は、受講後、即座に、伸びる結果ではないが、今の自身の生活に合わせた働き方で、一步を踏み出す、更に学習を継続するため、大学院へと進学する、起業に向けて準備を始めるなど、キャリアプランを考え、転換する傾向がみられた。

○受講前の雇用形態

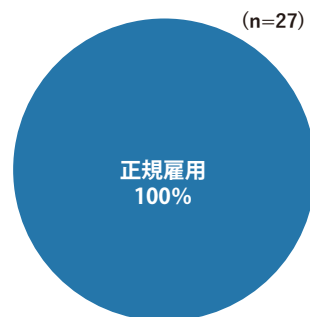
キャンパス平日通学コース (図6)



文系女子のためのDX入門コース (図7)

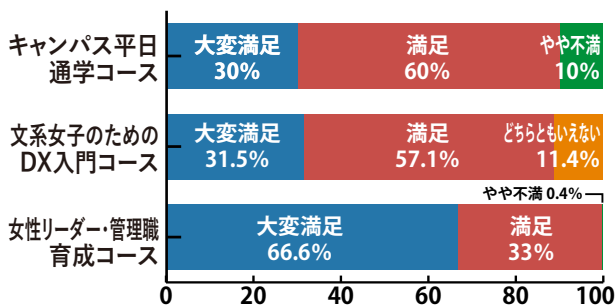


女性リーダー・管理職育成コース (図8)



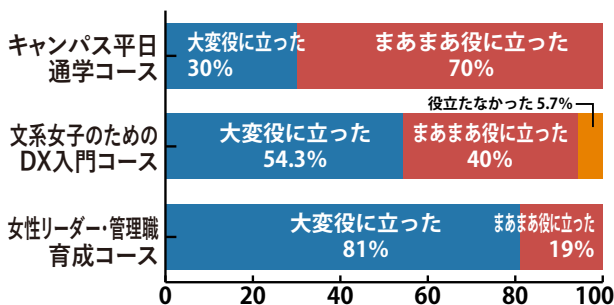
●プログラムへの満足度 (図9)

どのコースでも、90%以上の満足度が得られた。



●キャリアへの有用性 (図10)

全てのコースで、大変役立った、まあまあ役立ったと肯定的な意見が90%~100%を占めた。



4. 2022年度コースごとの特徴と成果

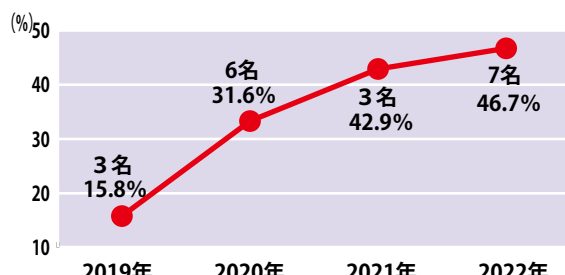
●キャンパス平日通学コース

大学の独自プログラムとして開講しているキャンパス平日通学コースは、本年度で5年目を迎え、120時間の履修証明プログラムとして、ビジネス知識、スキルだけでなく、学部講義の一部など、幅広く学べるコースとしての魅力を、継続している。

開講次年度の平成30年度には、文部科学省「教育実践力育成プログラム(BP)」の認定を受け、京女リカレントの中で、最も実績あるコースといえる。

このコースは、教育実践給付金制度を利用できるが、利用する受講生は、年々増加をたどり、2022年度は、約5割近くの受講生が利用している。

○教育実践給付金制度利用率 (図11)



○就業率の変化

就業率は、受講前には、3割強だったが(図6参照)、受講後の3月末時点では、5割以上となった。また、残り2割の受講生は、起業に関心を持ち、準備を始める決意をしている。この数字から、リカレント受講をきっかけに、再び、社会での活躍を目指したいというマインドアップがはかれ、一定の成果につながっていることがわかる。

○科目一覧 (表5)

領域	区分	科目	回数	授業形態	
キャリア形成科目	必修	ライフ・キャリアデザイン	12	対面・Zoom	
		1科目選択 いずれか	基礎英語	12	Zoom
			オフィス英語	12	Zoom
			パソコン基礎	12	対面
	3科目選択	パソコン実践	12	対面	
		人的資源管理	6	Zoom	
		会社法(起業含む)	12	Zoom	
		企業会計	8	Zoom	
		マーケティング入門	6	Zoom	
		ロジカル・ライティング	6	対面	
		簿記1(3級)	12	対面	
		簿記2(商業簿記アドバンス)	12	選択希望者無し	
		京都とイノベーション(伝統産業)	6	対面	
		組織マネジメント	6	Zoom・オンデマンド	
ツールズ論	6	対面			
教養科目	2科目選択	教養科目C(女性を生きる)	15	オンデマンド	
		ファッション文化論(服飾美学)	15	オンデマンド	
		金融論	15	オンデマンド	
		産学連携講座A2(野村證券)	15	オンデマンド	

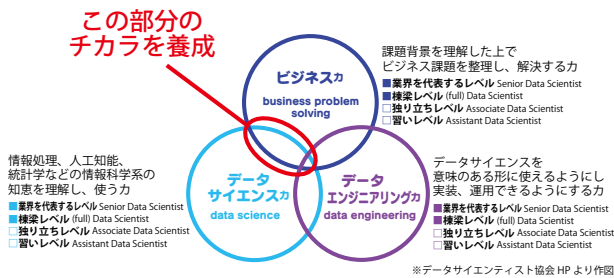
●文系女子のためのDX入門コース

令和3年度文部科学省DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント推進事業の委託を受け、文系女子のためのDX入門コースを開講した。

デジタル社会の発展を反映し、2022年度の京女リカレントの中で、応募者が最も多い人気コースとなった。(表3参照) データサイエンティスト協会が示すビジネスカとデータサイエンスを身に着け、データの簡単な集計・分析ができるアシスタントレベルで、即戦力として、活躍できる力を養うことを目標とした。(図12)

リカレント教育課程

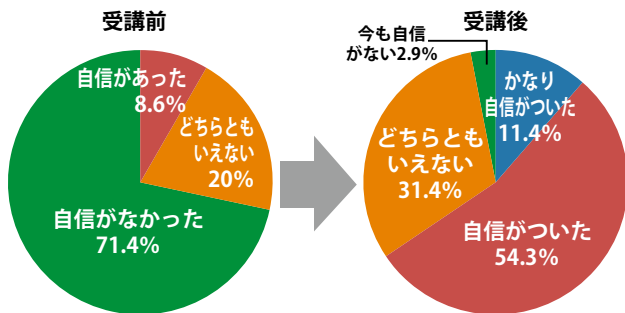
3つのスキルセット 4段階のスキルレベル (図 12)



受講前後で、受講生の DX リテラシーへの自信が大きく変化したことは、このコースの大きな成果といえる。(図 13)

あなたは、受講前に DX リテラシーについて自信がありましたか。(図 13)

自信がある割合が、8.6%から 65.7%へと大きく増加



他のコース同様に、キャリアカウンセリング機会を設けて、フォロー体制をとったが、キャリアカウンセリングは 39 名のうち 19 名の利用にとどまった。予想していたキャリアチェンジの相談よりも、企業内のキャリアアップに関する相談や今後の働き方へのアドバイスを求めるものが多かった印象である。インターク1回、カウンセリング2回、中間面談1回の実施で、インタークと中間面談は学内のコーディネーターが実施した。

▼成果報告会



○科目一覧 (表 6)

領域	区分	科目名	回数	授業形態
形成科目	キャリア	キャリア・マネジメント	4	対面
DS 概要	必修	データサイエンス概論 (情報倫理含む)	2	オンデマンド
	必修	データサイエンスケース	3	オンデマンド
DS 基礎演習	選択	統計を学ぶための数学基礎 I (ベーシック編)	1	対面
	必修	統計を学ぶための数学基礎 II (中級編)	1	対面
	必修	DS 基礎演習 1	2	対面
	必修	DS 基礎演習 2	2	対面
	必修	DS 基礎演習 3	2	対面
	必修	DS 基礎演習 4	1	対面
	選択	DS 基礎演習 5	1	対面
※DS基礎を履修したのみが受講できる	必修	DS 応用演習 1	2	対面
	選択	DS 応用演習 2	1	対面
	選択	DS 応用演習 3	1	対面
	必修	DS 応用演習 4	2	対面
	選択	DS 応用演習 5	2	対面
	選択	DS 応用演習 6	1	対面
	選択	DS 応用演習 7	1	対面
発展	DSの	DS 応用論	1	対面
教養	ビジネス	人的資源管理とキャリア資産	6	オンデマンド
スキル科目	選択	プレゼンテーション	4	対面
	選択	ロジカルライティング	1	対面
	選択	ビジネスライティング	1	対面
見学	職場	NTT, 大阪労働協会 (選択)	2	対面
シオン	選択	IBM IT 系プログラム	-	オンデマンド
	選択	IBM AI リテラシー	10	オンデマンド
ミナー	交流セ	「隣のデータサイエンティスト」交流セミナー	3	対面

●女性リーダー・管理職育成コース

令和 4 年度文部科学省女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業の委託を受け、女性リーダー・管理職育成コースを開講した。

このコースでは、演習形式で、グループワークを取り入れた対面授業を中心に学んだ。「大阪ジョブフェア」の企画を実際に行う TBL 形式の授業やロールモデルとなる管理職と交流するランチセッションなどを通じ、「自分の学びたい以

上の知るべきことを吸収できた。」「自身が目指すリーダーシップ像を明確にすることができた。」「管理職、リーダーを目指す同志に出会え、今後の変容と成長するきっかけを得られた。」と、受講生から高評価を得ることができた。講座への有用性については、100%を達成し、非常に高い評価を受けたコースであった。(図10 参照)

また、成果報告会では、グループでの発表を実施したり、修了パーティを受講生が、自主企画で実施したり、講座が進むにつれ、企画力、実践力の向上を確認できたことも、大きな成果である。

▼受講生が企画し、来場者に高評価を得た「大阪ジョブフェア」



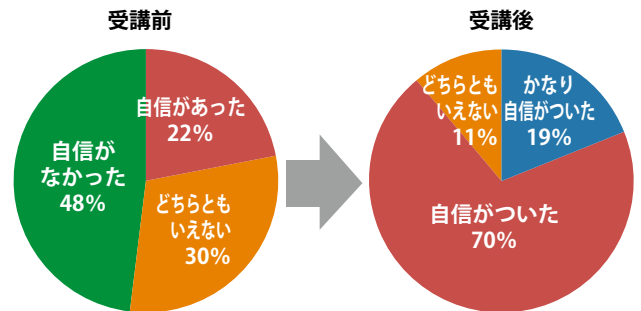
▼成果報告会で、お揃いのTシャツを制作して発表する受講生



リーダーシップ力の向上について、受講前は、自信がない、どちらとも言えないが、78%を占めていたが、受講後は、かなり自信がついた、自信がついたが89%と逆転したことから、リーダーシップ力育成という当初の目標が、達成できた。

リーダーシップ力に、受講前に自信があったとしたのは、約2割だったか、受講後は9割近くに増えた。(図14 参照)
*ここでのリーダーシップ力とは、ある一定の目標達成のために個人、チームに対しての行動を促す力のこと。

あなたは、受講前にリーダーシップについて自信がありましたか。(図14)



○科目一覧(表7)

領域	区分	科目名	回数	授業形態
ア 科 目	必 修	キャリア・マネジメント	3	対面
		組織マネジメント	6	オンデマンド
ス キ ル 科 目	必 修	人的資源管理	6	オンデマンド
		リーダーシップ実践	3	対面
		コーチング	2	対面
		アンガーマネジメント	1	対面
		業務効率化のためのデジタルスキル	3	対面
演 習	必 修	経営戦略を数字で語るための基礎スキル	3	対面・オンデマンド
		プロジェクト推進力育成演習	9	対面
演 習	必 修	創造性を高めるためのブレークスルー演習	6	対面
		卒業成果報告会	—	対面
シ ョ ウ ン	選 択	AIリテラシー	—	オンデマンド
ミ ニ ア ー	選 択	ロールモデル・セミナー(ランチセッション)	6	対面

▼演習授業



リカレント教育課程

5. 文部科学省委託事業の運営

文部科学省の委託事業である 文系女子のための DX 入門コースと女性リーダー・管理職育成コースにおいては、本学内と連携先による評価部会を組織してプログラムの評価を行った。

●委員会評価 文系女子のための DX 入門コース

講座の難易度が高いとする意見もあったが、DXの基礎を学び、受講生の自信に繋がっていることから、プログラムの目的の達成を確認できたとの評価を受けた。* 4 尺度評価 (最高点4・・・最低点1)

	カリキュラム全体の有益性	受講生同士のネットワーク形成への有益性	本プログラム目的の達成度	評議員コメント
学外 評価委員 A	3	3	3	講座全体の難易度が「やや難しい」「難しい」と感じたからこそ「自信がついた」という結果に結びついていると思われ、設定レベルは適切だったといえる。本件のような入門レベルの女性のリカレント教育については、この「自信がつく」ということが重要であると考えられ、昨年度の事業評価の際に出ていたように女子大学だからこそその心理的安全性を確保した空間をうまく活用して、今後の事業も進めていただきたい。
学外 評価委員 B	4	3	4	受講後 DX リテラシーへの自信がついた方の割合が飛躍的に高まっており、レベル感の違う人達をうまく指導された大学及び講師陣に敬意を表したい。
学外 評価委員 C	4	4	4	能力・意欲をもつ女性が、自身のポテンシャルを最大限に発揮できるよう、ノウハウを持つ女子大学の率先した取組は非常に有意義。その中でも貴学のリーダーシップに感謝するとともに、引き続きの取組みに期待する。
学内 評価委員 D	3	3	3	受講生のレベル差、求める難易度の差への対応が課題と思われた。本事業から得られた検証結果を生かしつつ、女性、社会のニーズを把握し、その中でも京都女子大学の特徴を生かした質の高いリカレント教育課程のプログラム構築を目指していただきたい。また、本学の強みであるきめ細かなサポート体制も維持していければなお良いと思う。
学内 評価委員 E	4	3	3	本プログラムは文系女子のための DX 入門コースとなっており、受講生の数学等のレベルに差が見られ、難しい、やや難しいと回答した者も 62.9%見られた。しかし、アンケートの自由記載から、講師、スタッフのサポートにより、苦手な数学、統計学も楽しく受講でき、DX リテラシーについて、受講前は 71.4%が自信がなかったと回答したが、受講後は 54.3%が自信が付いた、かなり自信が付いた 11.4%と好転し、データサイエンスの重要性や、キャリアへの有益性も理解していることから、一定の目的は達成できたと思われる。
平均	3.6	3.2	3.4	

●委員会評価 女性リーダー・管理職育成コース

本プログラムでは、評価委員から、ほぼ満点の評価が得られた。女性の教育に長年携わる女子大学だからこそ実現できたプログラムや受講生が安心して学べる環境づくりに、今後も期待の声が寄せられた。

	カリキュラム全体の 有益性	受講生同士のネットワ ーク形成への 有益性	本プログラ ム目的の 達成度	評議員コメント
学外 評価委員 A	4	4	4	受講生のレベルの高さも相まって、効果的なプログラムとなっていると考える。引き続き、女性リーダーの育成に努めていただきたい。
学外 評価委員 B	4	3	4	受講後のアフターフォローを継続して取り組めるような仕組みを「京都府リカレント教育推進機構」等とも連携して取り組んで行けるよう京都府生涯現役クリエイティブセンターとしても積極的な連携を図って行きたい。
学外 評価委員 C	4	4	4	能力意欲をもつ女性が、自身のポテンシャルを最大限に発揮できるよう、ノウハウを持つ女子大学の率先した取組は非常に有意義。その中でも貴学のリーダーシップに感謝するとともに、引き続きの取組に期待する。
学内 評価委員 D	4	4	4	各科目の有用性、目的と実際の学びの合致、全体の満足度、能力習得の満足度、キャリアを考える有用性、いずれも高評価であり、本コースの大きな可能性を示すアンケート結果ではないだろうか。本コースを京都女子大学リカレント教育課程の中核に据え、女性、企業、社会から求められる、質の高い、さらに課題でもある自走可能な課程の構築が期待される。
学内 評価委員 E	4	4	4	受講希望者も多く、管理職を目指す女性が多いことが示唆されている。また、社会が求めるジェンダー平等の観点からも有益なプログラムである。受講生のレベルも高く、リーダーシップ力に自信が付き、管理職への積極的な挑戦意欲が見られたことから、非常に有益でかつ効果的なプログラムとなっている。女子大だからこそできる管理職育成コースとして、今後益々の発展に期待する。
平均	4	3.8	4	

2022年度 主な活動実績

2022年

- 5.1 株式会社エヌ・ビー・エルと学生の教育・研究、学術研究、地域活性化、人材の育成等で連携協定締結
- 6.10 リカレント教育課程池上氏が語る女性のためのリカレント教育(リカレント説明会)実施*ウェビナーで実施
- 6.13～8.4 リカレント教育課程個別説明会(リモート)実施
- 6.16 京都薬科大学と学生の教育・研究、データサイエンス教育・研究、リカレント教育等で連携協定締結
- 7.23 リカレント教育課程 対面個別説明会(滋賀大学大津サテライトプラザ)実施
- 7.28 第1回 文部科学省リカレント事業実行委員会
- 7.30 リカレント教育課程 対面個別説明会(京都女子大学大阪オフィス)実施
- 7.1～8.20 リカレント教育課程出願期間(キャンパス平日通学コース)
- 7.20～8.20 リカレント教育課程 出願期間(DX入門コース/女性リーダー・管理職育成コース)
- 8.10～20 祇園4町内行灯絵(生活造形学科矢野ゼミ制作)掲出
- 9.3～5 リカレント教育課程 応募者面接実施
- 9.5 女子大連携ネットワーク第4回ミーティング開催
- 9.8 第2回 文部科学省リカレント事業実行委員会
- 9.9 リカレント教育課程 応募者選考結果発表
- 9.12～16 リカレント教育課程履修手続き期間
- 9.17 リカレント教育課程オリエンテーション実施
- 10.1 リカレント教育課程入校式(DX入門コース/女性リーダー・管理職育成コース)
- 10.3 リカレント教育課程入校式(キャンパス平日通学コース)
- 10.18 株式会社 IDホールディングスとデータサイエンス教育・研究、人材の育成で、連携協定締結
- 10.25 一般社団法人 近畿健康管理センターと健康・栄養の教育、健診及び関連業務における人材の育成等で連携協定締結
- 10.25 西日本旅客鉄道株式会社とデータサイエンス教育・研究、人材の育成、地域の課題解決等で連携協定締結
- 11.1 東京大学よりリカレントに関するインタビュー
- 11.2 リカレント教育課程受講生が、NTT西日本、福祉事業団への職場見学会を実施(DX入門コース)
- 11.4 リカレント教育課程受講生が、大阪労働協会への職場見学会を実施(DX入門コース)

- 11.5 京都府 DXリカレント(女性活躍応援コース)開講
- 11.11 第1回 文部科学省令和4年度女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援に関する有識者会議(zoom)
- 11.16 京都府とデータサイエンス教育・研究、人材の育成、リカレント教育、地域活性化等で連携協定締結
- 11.21 東京家政大学が本学リカレントについて視察
- 11.26 文部科学省からリカレント教育課程への授業視察(女性リーダー・管理職育成コース)
- 11.30 公益財団法人 市川房枝記念会女性と政治センターと女性の政治的エンパワーメントに向けた人材育成、女性の政治に関する調査・研究等で連携協定締結
- 12.9 第29回 教育情報共有会「キャリアアップ・再就職を目指す女性を支える京都女子大学のリカレント教育課程はなぜ受講希望者が後を絶たないのか」に地域連携研究センター長中山と連携推進課長小椋が登壇
- 12.13 NEC ネットズエスアイ株式会社とデータサイエンス教育・研究、人材の育成で連携協定締結
- 12.15 第3回 文部科学省リカレント事業実行委員会
- 12.19 兵庫県宍粟市教育委員会が本学リカレントについて視察
- 12.21 実践女子大学と学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、国際交流、人材の育成等で連携協定締結

2023年

- 1.18 京阪電車内や構内へ、連携活動プロジェクトの取り組みで、学生が制作した「性暴力撲滅ポスター」が貼りだされる
- 2.3 大妻女子大学が本学リカレントについて視察
- 2.4 リカレント教育課程成果報告会(DX入門コース)
- 2.6 リカレント教育課程 成果報告会(キャンパス平日通学コース)
- 2.16～21 リカレント評価部会(メール会議)
- 2.18 リカレント教育課程成果報告会(女性リーダー・管理職育成コース)
- 2.20 第7回ラウンドテーブル(Zoom)開催
- 2.20 連携プロジェクト報告会(Zoom)開催
- 2.24 第4回 文部科学省リカレント事業実行委員会
- 2.25 リカレント教育課程 修了式
- 3.16 女性のためのリカレント教育推進協議会(FRE)シンポジウム「アントレプレナーとリカレント」会長校として運営

協定締結先と連携協定内容一覧

(協定締結日順)

協定締結先	協定締結日	連携協定書内容
京都信用金庫	2004/10/18	産学連携活動
東山区役所	2008/2/26	まちづくりの推進に関すること、教育、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承と振興、地域産業の振興
近畿中国森林管理局	2008/9/16	「遊々の森」における体験活動
京都大学	2010/6/1	特別研究学生交流
東山区社会福祉協議会	2010/10/4	地域福祉活動、地域福祉推進
京都市中央卸売市場第一市場	2013/11/5	健康増進・食育にかかる情報発信、市場活性化・市場流通品の促進、地域活性化
京都府警察本部	2014/11/7	交通安全の課題と対策、交通安全活動、道路交通環境の改善、通学路の交通安全
阪急電鉄株式会社	2015/3/26	教育、人材の育成、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承、地域産業の振興
鳥取県、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構	2015/6/29	就職支援、産学官連携、世代間交流、生涯学習
招徳酒造株式会社	2015/9/18	地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化
齊藤酒造株式会社	2015/9/18	地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化
株式会社 朝日新聞社	2016/1/20	新聞産業・文化の継承と振興、メディア教育、人材の育成
野村証券株式会社	2016/2/1	金融教育、人材育成
株式会社三井住友銀行	2016/7/8	金融教育、人材の育成、地域活性化
京都刑務所	2016/7/27	教育、人材の育成
奈良女子大学	2016/9/23	女性人材、学生及び大学院生の交流、単位互換
京都市立東山総合支援学校	2016/10/13	教育、人材の育成
株式会社京都銀行	2016/12/8	金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化
京都励学国際学院	2016/12/14	日本語教育課程、留学生教育、協定校の拡充
NPO 法人京都景観フォーラム	2017/1/17	地域景観教育、人材の育成
ムーンバット株式会社	2017/2/6	デザイン教育、人材の育成
ハイアットリージェンシー京都	2017/2/15	寄附講義、ホスピタリティ、人材の育成
大阪ガス株式会社	2017/2/17	寄附講義、人材育成
京都アメリカ大学コンソーシアム	2017/4/21	語学教育、人材の育成
5×Ruby Inc.	2017/5/15	情報教育、人材の育成、インターンシップ
武庫川女子大学	2017/7/11	SDの実施
奈良先端科学技術大学院大学	2017/7/24	理系人材、学生及び大学院生の交流、単位互換
オムロンパーソネル株式会社	2018/3/2	リカレント教育、人材の育成
京都府立医科大学	2018/3/26	教育・研究、学生の交流、教職員・研究者交流
大妻女子大学	2018/4/10	学生及び大学院生の交流、単位互換、教職員及び研究者の交流
鹿児島国際大学	2018/7/23	学生・院生の教育・相互交流、学術研究、教職員の相互交流、地域貢献
東山警察署	2018/7/24	事故・事件の防止活動と対策、教育・研究支援
岐阜県白川村	2019/4/1	地域の活性化及び産業の振興、教育、伝統文化の継承と振興、人材の育成
共立女子大学・共立女子短期大学	2019/5/1	学生の教育・学術研究、教職員の相互交流、地域貢献
滋賀県多賀町	2019/6/12	地域産業の振興、地域活性化、人材の育成
オムロンエキスパートリンク株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援

協定締結先	協定締結日	連携協定書内容
株式会社 ワークアカデミー	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
西日本電信電話株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
京都市東山区保育園協議会	2020/6/16	教職員、学生、リカレント受講生の子どもの保育・保育活動
滋賀大学	2020/11/6	学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、文化・芸術の向上
京都中小企業家同友会	2020/12/12	中小企業の理解、地域企業の発展、人材の育成、産学連携や地域活性化
京都中央信用金庫	2021/1/27	金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化
公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会	2021/3/9	地域伝統文化の継承と振興、地域活性化、教育活動、人材の育成
京都弁護士会	2021/5/27	実務法曹の能力の向上、学術研究及び教育の推進
日新電機株式会社	2021/7/1	データサイエンス教育・研究、人材育成等
株式会社 半兵衛麩	2021/7/8	食文化の継承と振興、地域産業の振興
株式会社 SCREEN ホールディングス	2021/8/18	データサイエンス教育・研究、人材育成等
社会福祉法人 京都府社会福祉事業団	2021/10/1	教育・研究、リカレント分野の事業活動等
日本赤十字社京都府支部	2021/11/24	防災教育・研究
京都市	2022/3/28	データサイエンス教育・研究、人材育成等
オムロンヘルスケア株式会社	2022/3/28	データサイエンス教育・研究、人材育成、健康教育等
株式会社エヌ・ビー・エル	2022/5/1	学生の教育・研究、学術研究、地域活性化、人材の育成等
京都薬科大学	2022/6/16	学生の教育・研究、データサイエンス教育・研究、リカレント教育等
株式会社 ID ホールディングス	2022/10/18	データサイエンス教育・研究、人材の育成
一般社団法人 近畿健康管理センター	2022/10/25	健康・栄養の教育、健診及び関連業務における人材の育成等
西日本旅客鉄道株式会社	2022/10/25	データサイエンス教育・研究、人材の育成、地域の課題解決等
京都府	2022/11/16	データサイエンス教育・研究、人材の育成、リカレント教育、地域活性化等
公益財団法人 市川房枝記念会女性と政治センター	2022/11/30	女性の政治的エンパワーメントに向けた人材育成、女性の政治に関する調査・研究等
NEC ネットエスアイ株式会社	2022/12/13	データサイエンス教育・研究、人材の育成
実践女子大学	2022/12/21	学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、国際交流、人材の育成等

京都女子大学地域・産学官連携ポリシー

(平成29年2月9日制定)

京都女子大学は、創立以来、女性教育のパイオニアとして多様な分野で活躍する女性を輩出してきました。

本学では親鸞聖人の体した仏教に基づく教育を行うことを建学の精神としています。その目的は、人間教育にあります。仏教を通して自己を見つめ自己中心的な姿を明らかにします。互いが自己中心的存在であることを認め信頼関係を構築していきます。現実の諸問題に対しても、問題の本質を捉え、積極的に取り組む人間形成を目指した教育を実践しています。

この建学の精神に則り、京都女子大学は、地域社会、国と地方公共団体、産業界、そして国際社会の発展に寄与する地域・産学官連携を教育と研究に並ぶ大学の使命の一つとして位置付け、この使命を実現するための基本方針として、以下の通り「地域連携ポリシー」および「産学官連携ポリシー」を定めます。

《地域連携ポリシー》

1. 本学の建学の精神に鑑み、地域社会との持続的な連携を行い、地域社会の活性化のために貢献します。
(社会貢献)
2. 地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、地域社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(教育研究促進・人材育成)
3. 地域連携により得られた知の成果を広く社会に還元し、地域社会と地域課題の共有に努めます。
(地域課題の共有)
4. 地域連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
5. 地域連携活動を大学の自己評価に反映させます。
(自己評価)
6. 本学の地域連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

《産学官連携ポリシー》

1. 公的機関・企業等との共同研究・受託研究等を積極的に推進し、社会・経済の発展に寄与するとともに、本学の教育研究活動の基盤向上を図ります。
(共同研究)
2. 産学官連携活動から得られる成果を本学の教育・研究の促進に役立てます。(教育研究促進)
3. 産学官連携活動を通じて、社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(人材育成)
4. 本学と公的機関・企業等との組織間の明確な契約による連携を基本とし、産学官連携により得られた知的財産を適切に保護・管理し、有効活用していきます。
(知財管理・活用)
5. 透明性の高い産学官連携活動を行い、説明責任を果たします。(説明責任)
6. 産学官連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
7. 産学官連携活動を大学の自己評価に反映させます。
(自己評価)
8. 本学の産学官連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

以上



編集・発行

京都女子大学 地域連携研究センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35

TEL. 075(531)9057 FAX. 075(531)7323

E-mail: renkei@kyoto-wu.ac.jp

URL: <https://rccp.kyoto-wu.ac.jp>